

金澤召集

歩兵科

兵卒之部

充員

名古屋召集

豫備役 軍吏部下士
適任上等兵

師休兵之部

充員

名古屋召集

歩兵

上等兵
喇叭卒

銃卒

兵

上等兵
喇叭卒

騎卒

砲兵

上等兵
砲卒

火工卒
喇叭卒

工兵

上等兵
喇叭卒

工卒

輜重兵

上等兵
喇叭卒

騎卒

看護卒

金澤召集

歩兵

上等兵
喇叭卒

銃卒

充員

名古屋召集

豫備役兵卒之部

騎兵

上等兵
喇叭卒

騎卒

砲兵

兵

上等兵
砲卒

火工卒
喇叭卒

工兵

上等兵
喇叭卒

工卒

輜重兵

上等兵
喇叭卒

騎卒

輜重輪卒

組長入營

未入營

悉皆待命

看護卒

衛生隊

擔架上等兵

擔架卒

金澤召集

歩兵

上等兵
喇叭卒

銃兵

後備軍艦員之部

名古屋召集

騎兵科

砲兵科

工兵科

輜重兵科

團點ヲ附スルモノハ廿一年出師年度
中ハ充員ノ令ニテ召集ノモノトス

金澤召集

歩兵科

後備軍兵卒之部

名古屋召集

後備軍 軍吏部下士
適任上等兵
名古屋召集

騎兵 上等兵 騎卒
喇叭卒 砲卒 上等兵 砲卒
喇叭卒 火工卒 工兵 喇叭卒
工卒
騎重兵 上等兵 騎卒
喇叭卒 騎重輪卒 未入營 悉皆待命

看護卒 園點ヲ附スルモノハ二十一年度中ハ充員ノ令ニテ召集ノモノトス
金澤召集

步兵 上等兵 銃卒 第七聯隊々屬
喇叭卒 騎重輪卒 組長入營ノ者悉皆應召

第七聯隊屬

輜重兵 一名 但后備軍召集ノ令ニテ召集ノモノトス
近衛豫備役驅員ノ部

集合地名古屋
步兵科 騎兵科 砲兵科 工兵科

近衛騎休兵ノ部

充員

步兵 上等兵 銃卒 騎卒
喇叭卒 騎兵 喇叭卒 砲卒
上等兵 砲卒 喇叭卒 火工卒

工兵 上等兵 工卒
喇叭卒

近衛豫備役兵卒ノ部

充員

步兵 上等兵 銃卒 騎卒
喇叭卒 騎兵 喇叭卒 砲卒
上等兵 砲卒 喇叭卒 火工卒

工兵 上等兵 工卒
喇叭卒

近衛後備軍驅員ノ部

召集

集合地名古屋
步兵科 騎兵科 砲兵科 工兵科

廿一年出師年度中ハ騎砲兵科ハ充員ノ令ニテ召集○工兵科ハ師團後備軍召集ノ令ニテ名古屋
古屋へ召集○歩兵科ハ師團后備軍召集ノ令ニテ金澤へ召集

近衛後備軍兵卒ノ部

召集

集各地名古屋

步兵	上等兵	銃卒	騎兵	上等兵	騎卒	砲卒	上等兵	火工卒
	喇叭卒			喇叭卒			喇叭卒	喇叭卒

工兵	上等兵	工卒
	喇叭卒	

廿一年出師年度中ハ騎砲兵科ハ充員ノ令ニテ召集○工兵ハ師團后備軍召集ノ令ニテ名古屋
屋へ召集○歩兵ハ師團后備軍召集ノ令ニテ金澤へ召集

●訓令第十七号(明治廿二年二月二十日)

明治廿二年出師年度ニ於テ依リ召集スヘキ兵員ノ召集地及要員并ニ後備軍召集ノ令ニテ
召集スヘキ要員等別紙ノ通り相定メラシメ候旨其筋ヨリ通知有之候條此旨心得ヘシ

但本文ニ依リ訂正ヲ要スヘキ令狀ハ廿二年度ニ至リ差山スヘシ

一師團後備休兵及豫備役歩兵 悉 皆

但軍吏部下士適任証書所持ノ者及擔架術卒業者ニシテ戰時衛生隊要員ニ充テタル者

除シ

一豫備役輜重兵 五名 (二名ハ他郡區ヨリ充ツ)

一全 輸 卒 入 營 二十四名 (入營二十二名他郡區ヨリ充ツ)
不入營 六十二名 (不入營六十二名河北郡ヨリ充ツ)

但歩兵第七聯隊大小行季要員ニ充ツ

一師團後備役歩兵 悉 皆

一全 輜重輸卒 入 營 六名 (入營六名)
不入營 七十六名 (不入營七拾六名 河北郡ヨリ充ツ)

但後備歩兵第七聯隊大小行季要員ニ充ツ

右召集地金澤

前記ノ外諸兵員ハ渾テ名古屋ニ召集ス

但シ近衛後備役諸兵及師團同(歩兵及輜重)召集及召集區
輸卒ヲ除ク分ハ追テ達ス

能美郡

豫備役輜重兵

十八年第二番	桶村	窪田永吉
十九年第一番	小松東町	永山虎二郎
全 第三番	園村	沖谷勇松

計三名

豫備役輸卒

入營ノ部

十八年第一三番	丸山村	林三助
十九年第三番	山合島村	川上彦次郎

●訓令第三十一号(明治廿二年三月四日)
 今般別紙ノ通陸軍省ヨリ訓令相成候旨其筋ヨリ通知有之候條此旨心得ヘシ
 (別紙)

陸軍省訓令乙第壹号

本年豫備兵定時演習召集ハ陸軍召集條例揭示ノ通り施行難相成候條復習費ノ許ス限リ適宜ノ入員ヲ召集シ三週間演習施行スヘシ

但飯休兵及本年豫備兵へ編入ノ者ハ召集セス

明治廿二年二月十四日 △警備隊ニ係ルモノヲ指シ

●陸軍省訓令乙貳号(明治廿二年二月十四日)

本年近衛豫備兵定時演習召集ハ陸軍召集條例第十九條第二項ニ依リ其師團ニ於テ施行スヘシ

但書前同斷

●訓令第三十二号(明治廿二年三月四日)

明治廿二年十一月訓令第二百九号在郷諸兵願屆書式中共二十ノ項ヲ自今片長ノ証明ヲ要スヘシ義ト心得ヘシ

●訓令第四十六号(明治廿二年三月十六日)

徵兵事務施行細則第一書式廿丁名簿ハ第三師團司令部ニ於テ協議ノ末寸法等大凡別紙離形ノ如キ各郡區一休裁ニ調整可然旨其筋ヨリ申越候條該離形ニ準據シ調整指出スヘシ

皇尺五十一

格		體		備考	終決	決		假	兵種	番	住所
要	摘	各部	胸廓			身	子				
		視力	尺度	身							
		辨色力	關節	度							
				幹							

訓令第五十四号(明治廿二年四月二日)

本月一日ヨリ水縣市町村制施行相成候就テハ召集令狀中住所訂正方之義ハ陸軍召集條例
 細務規定書第五百四條第一項ニ準シ市町村長ニ於テ訂正相成候様金澤監視區長ヨリ照
 會越候條有様取扱フヘシ

訓令第六十四号(明治廿二年四月十六日)

別紙徵兵令改正ノ主意其筋ヨリ回送相成候條爲心得下附ス

徵兵令改正ノ主意

夫レ一國ノ生民各處ニ割據シ各々異様ノ利害感覺ニ慣レ及テ全國ノ利害ヲ共治セサルハ
 恰モ封建ノ通弊ニシテ此形勢ノ現存セル時限ハ孰レノ國ニ於ケルモ其國ハ尙ホ所謂國ニ
 非ラヌ孰レノ民ニ於ルモ其民ハ尙ホ所謂國民ニ非ラヌ夫レ各種ノ人類及異様ノ利害ニ感
 覺スル種族ヲ包括シ組織シ秩序ヲ班シテ社會トナシ更ニ之ヲ包括シ統一スルモノ即チ所
 謂國ナリ又人類種族公ニ全國ノ利害ヲ共治スルモノ即チ所謂國民ナリ謹ンテ我邦最近ノ
 歴史ヲ案スルニ明治四年七月十四日廢藩置縣ノ盛舉アリシニ山ヲ帝國ノ建立及國民ノ組
 織一則兩全シクルヲ以テ文武ノ治轍モ亦一變シ兵製ノ如キハ明治五年十一月廿八日ノ徵

兵令ニ由リ從來ノ封建制ヲ廢止シ更ニ國民兵組織ノ基礎ヲ開クニ至リ抑モ某國ノ其
 兵力ヲ組織シ常備スルノ本旨ナル他ナシ應サニ内外ニ對シ其正當ナル秩序ヲ維持シ及其
 國民ヲ警護スルニアルナルヘシ若シ適宜ノ組織ニ由リ戰備整頓シタル兵力ノ常備ヲ缺ク
 是ハ當ニ外國ニ對シ自國ノ利害ヲ計畫シ及外患覬覦ヲ防止スルヲ能ハサルノミナラス會
 々内國ニ於テ兇徒蜂起シ社會ノ秩序之カ爲メニ紊亂スルモ速ニ彈壓スルヲ能ハサルヤ彰
 手トシテ視ルヘキノミ今ヤ我政府ニ於テハ地方ノ制ヲ一變シ所謂國民自治ノ主義ヲ以テ
 更ニ町村郡縣ノ制度ヲ確定セントス然ラハ則チ從來我陸軍部ニ於テ缺典視シタル各軍管
 區内ノ軍事ニ關スル各般事務ノ管掌モ亦隨テ漸次此自治体ノ行務ニ歸シ所謂文武自治ノ
 主義併セテ其緒ヲ就ントスルヤ疑フヘキニアラサルナリ然レモ國民學ヲ其國ノ兵役ニ服
 スルヲ果シテ其軍部ニ關スル自治ノ義務ヲリトセハ此機會ニ際シ一層其義務ヲ明確ニシ
 併セテ其權利ヲ確定スルヲ頗ル必要ナルカ加シ而シテ軍人ノ義務ハ自己ノ定意ヲ發シテ
 天皇陛下ノ定意ニ委テ且身ヲ以テ國ニ殉スルニ在リ又其權利ナル者ハ名譽即チ是ナリ前
 述ノ主義明確ナラサレハ服役法モ亦完全固定セズ而シテ全國ノ子弟學テ兵役ニ服スルモ
 徒ラニ陽ニ奉シテ隊伍ノ外線ヲ形束スルニ止マリ陰ニ自休自家及自國ヲ警護スルノ義務

ニ心服スルヲナク從テ國民ノ軍氣振興セズ國威モ亦振張スル能ハサルナリ現行ノ徵兵令
 ナ按スルニ兵卒ヲ徵集スルノ方法ハ稍ヤ備ハレリト雖モ建國根元ノ主義タル國民須ク學
 テ兵タルヘシトノ精神即チ一國ノ軍氣ヲ振張確實ニシ之ヲミテ人々ノ意裏ニ銘刻セシメ
 殊ニ之ヲシテ社會ノ上流ニ在ル者ヨリ振然下流ニ普及セシメントスルニ至テハ其脈向未
 ダ盡サ、ル處アリ是レ國体上一大缺典ト謂ハサルヲ得ズ則チ同令中免除及猶豫ノ名義アル
 ナ以テ毎時此區域ニ逃避スルモノ少々ナラス就中智識ノ發育ニ當リ目今己ニ其位置ヲ社
 會ノ上或ハ中流ニ占ムヘキ高等專門諸學ノ學生ノ如キハ悉皆徵集猶豫ニ屬スルノ例アリ
 又資産アルモノハ其子弟海外ニ留學セシメ之ニ依テ兵役ヲ避ケシムルニ至レリ但是等
 ノ輩ハ戰時事變ニ際シ兵員徵集ノ令ニ服セサルヲ得スト雖モ是レ非常ノ令タルヲ以テ平
 時ノ常法ト爲ス能ハサルナリ然ルニ前述ノ主意ニ徵スレハ軍部ノ自治義務ハ自他行政部
 ニ關スル自治ノ義務ロリモ寧ロ一層嚴重ナル義務ナリ故ニ苟クモ我 天皇陛下ノ臣タル
 ハ其貴賤或ハ貧富ヲ問ハス齊シク兵役ニ服スヘク決シテ免除又ハ猶豫スヘカラサルヲ須
 ク一定不變ノ原則ナルヘシ又我帝國ニ在テハ國民兵役ニ服シ軍人タル以上ハ直ニ 天皇
 陛下ノ節度ヲ奉シ以テ護國ノ義務ヲ負擔スルニ由リ該義務ハ同時ニ國民ノ權利ニシテ乃

其名譽ナリ故ニ帝國ノ男兒タル者ハ兵役ハ先天ノ命令ナリトノ感情ヲ維持セシメ之ニ
 依テ一般ノ軍氣ヲ興起セシムルヲ以テ陸海軍ノ基ホト爲スヲ要ス其レ然リ果シテ然ル
 非ハ憲法ナク議院ナキノ今日ニ在テモ單ニ兵卒徵集ヲ旨トスル現行徵兵令ヲ維持シ墨守
 スルノミニテハ事甚ク完全ナラサルナリ宜シク建國根元ノ趣旨ニ基キ國民學ヲ兵役ニ服
 スルノ制ヲ以テ立法ノ主義ヲ改定スルニ蓋シ之ヲ今日ニ改制スルモ時期已ニ殆ント過シ
 トス況ンヤ之ヲ他日ニ讓ルヲヤ但シ今ヤ何カ故ニ議院設立ノ前ニ於テ徵兵令ヲ改正スル
 ノ必要ヲ見ルカ其理由蓋シ一ニシテ止マスト雖モ意フニ二十三年ニ至リ議員ナル者ハ華
 族及資産豐實學識名望ナル人士ヨリ擧ゲラルルヤ言テ後ク然ルコト今ヤ社會上階ノ人
 ナ黜擯スルニ將校及當該官ヲ除クノ外ハ重ニ兵備ノ細目ニ意ヲ注カサルノミナラズ軍務
 ノ全体ヲ度外ニ置キ甚クシキニ至テハ軍人ヲ看ルコト殆ト賤劣ノ職業者ニ同シ故ニ華
 族及ヒ財産ニ富饒ナル者ハ益々兵役ヲ避クルノ念ヲ生スルノミナラズ漸ク資産アル者ハ
 巧ニ之ヲ利用シテ子弟ヲ外國ニ留學セシムルニ至レリ夫レ上流ノ人ニシテ軍事及軍人ヲ
 待ツ既ニ然リ下流ノ社會ヲ成セル他ノ國民ニ於テ何カ有ンヤ而シテ此弊風タル封建ナ世
 道ニ兵民久シク其類ヲ異ニシタルノ余習ト漢學者流ノ文弱ヲ致セル弊害ニ原由スト謂ハ

サルヲ得ス今ニシテ此弊害ヲ刈除セシムル將ク何ノ日ニ於テ之ヲ矯正スヘケンヤ廿三年
 以後憲法ニ據テ議員立法ニ參議スルノ日ニ當リ幼稚ノ立法体ニ對向シ建國根元ヲ成ス國
 民最大ノ名譽義務タル兵役均賦ノ法案ヲ可決セシメントスルモ其難キヲ猶本ニ級テ魚ヲ
 求ムルカ加クナラン其慘然タル結果ハ實ニ想設ニ遠ヘサルナリ故ニ議院開設ニ先ク今
 日速ニ此徵兵令ヲ改正シ國民ハ單ニ護國ヲ旨トスル本分ノ大義務ヲ有スルノミナラス併
 テ天皇陛下ノ兵卒シリトノ名譽心ヲ發揮セシムルニ在リ是レ建國ノ組織上ニ於テ必ス
 缺ク可ラサルノ一大關鍵ナリ但我邦ノ地形ハ四面環海ニシテ之ヲ歐州大陸國ノ對峙其境
 ナ接シ互ニ相觀望スルモノトハ自ラ其情勢ヲ異ニセリ是ヲ以テ今ヤ徵兵令ヲ改正スルモ
 徒ラニ冗多ノ兵員ヲ常備スルノ主意ニ非ラス其目的トスル大旨ハ建國ノ根元ニ基キ國民
 學ヲ國家即帝室及我父母ノ邦ヲ保護センニハ必ス兵役ニ服シ之ニ依テ外帝國ノ尊嚴ナル
 威權ヲ名譽ヲ保持シ自社會ノ秩序ヲ維持セサルヘカラストノ精神ヲ億兆ノ頭腦ニ銘刻セ
 シムルニアリ就中資産學識ナル者ハ我陸海軍ノ義務ニ就キ必クヤ一回將校トナラサレハ
 世間名譽ノ位置ニ立ツコト能ハサルトノ念ヲ生セシムルニ在ルナリ且此輩ノ兵役期ハ一方
 ニ於テハ概テ一週年ト限ルコト得ルニ由リ敢テ本分ノ修學年期ヲ害スルコトナク而カモ他

ノ一方ニ於テハ此ノ輩單伍ニ列スルトハ直接ニ間接ニ我軍ノ教育ヲ獎勵シ軍隊ノ規律ヲ整理シ併テ多數ノ豫備士官ヲ得ルノ理由等アリテ其利益洵トニ甚少ナラズ大凡斯ノ如クニシテ眞ニ國民ヲ國家ノ干祐ヲラシムル常習ヲ喚起シ養成スルニ至テハ廿三年後ノ議員タル者ハ漸次軍人ノ思想ニ富ミ及軍人ノ名譽ヲ重シ之レカ爲メ全國ノ軍氣益々發達シ兵備護國ノ重事ヲ議スルニ當テモ能ク其本分ノ義務ヲ盡スコトヲ得ヘシ是レ速ニ徵兵令ヲ改正セラレソコトヲ企圖シテ止ム能ハサル所以ナリ

●訓令第六十五号(明治二十二年四月十七日)

軍隊手帖紛失等ニ據リ更ニ下渡方出願候者ニシテ自償ニ屬スルモノ代價ノ義本年會計年度中左ノ代金相添出願候様其筋ヨリ申越候條此旨各兵ヘ相達スヘシ
歩騎砲工輜重兵科看護卒
金十一錢

輜重輸卒

金八錢八厘

●内第廿六号(明治二十二年四月十七日)

地價特別修整ニ付地所ノ登記ヲ受ケル際地券而修正未了ノ向新地價ヲ兵長ノ証明書ニ記載シ登記ヲ受ケシムル様可取計旨明治二十年九月内第四十二号ヲ以テ内達致シ置候處

右ハ自今廢止候旨内訓相成候條此旨心得ヘシ
右内達ス

●内第三十一号(明治二十二年五月二十三日)

養ニ産婆取締規則ヲ制定セラレ從來ノ産婆ヲ廢シ更ニ産婆講習所ヲ設置ニ相成ケル義ハ全ク妊婦保護上ヨリ出テタルモノニ有之然ルニ從來ノ産婆ニシテ尙ホ竊カニ其業ヲ營ム者有之由而シテ之カ無免許ノ産婆ヲ聘シ分娩ニ至リ障害ヲ醸シ竟ニ不幸ノ域ニ陷ル等ノ議任々有之議ニ相聞ヘ取締上不都合ニ付今般其筋ニ於テ嚴重取締相成ヘシ趣愚昧ノ者ニシテ右取締規則ヲモ辨知セズ不知不識處分ヲ受ツカ如キニ至テハ惘然ノ次第ニ有之候條以后右無償札ノ者出産ニ關係セサル様市論方取計フヘシ
右内達ス

●訓令第八十三号(明治二十二年五月七日)

本年水原團令第七十一号ノ別表近衛充眞召集ノ欄内近衛歸休兵ノ部ノ次左ノ一部脱漏ニ付記入方取計ヘシ旨其筋ヨリ申來候條此旨心得フヘシ

●訓令第七十五号(明治二十二年四月二十七日)

本年三月訓令第二十七号ヲ以テ本年出師年度ニ於テ師團諸兵充員召集方ノ義相違置キ候
處今般近衛諸兵ニ係ル召集方其筋ヨリ通知相成候條別紙表面之通リ取東テ相違候條此旨
心得令狀ノ訂正ヲ要スヘシ分ハ至急差出スヘシ

郡規類集

○衛生之部

●能原甲八十六号

明治十六年六月十四日

飯食物ノ中毒及ヒ藥物等ノ誤用等ニ依リ死ヲ致ス者有之候節檢視濟ノ上其毒物ノ品名中
毒ノ症狀并ニ死者ノ住所姓名等詳細取届出スヘク且毒物ノ成分判然セサル分ハ現品取
添ヘ可差山守照達相成候間此旨相違候事

但シ死ニ至ラサルモノハト雖モ中毒最甚シキモノハ水文ニ離脱届出スヘシ

●明治十七年十二月十七日

本年内九十七番ヲ以テ六種傳染病ニ罹ル貧困者救濟規程御達相成候處右ハ極赤貧ノモノ
ニシテ資力ナキモノニ限リ給與スヘキハ勿論ニ候得共畢竟毒傳播ノ狀況アルカ若クハ
其萌芽ヲ生シ特ニ之ヲ豫防シ必要トシテ着手スル場合ニ限リ適用スヘキモノニシテ平
素一已人ノ治療ノミ止マルモノハ如キハ一切給與スヘキモノニアラサルヲ以テ濫リニ
適用セサル様注意可致且將來右救濟ニ係ル者有之節ハ局長衛生委員ヨリ其理由並ニ病況
等ヲ査定シ詳細見込書附シ具申可致旨今般訓示相成候條此旨内前候也

●号外

明治十九年一月十六日

傳染病患者發病時届出方ニ就テハ明治十三年第三十四号布達傳染病預防規則第三條ニ依リ其時々可届出ハ勿論ニ候得共今般該患者申報期日之義ニ付其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條自今一層注意速ニ可届出爲念此旨相達候事

●乾第四百十八号

明治十九年三月九日

墓地火葬場新設増地及廢止等届出ノ節ハ戸長役場ニ於テ願書ノ抽籤反別等抽帳ニ突合モ主務省檢印シテ該地所轄ノ警察署へ指出スヘシ同署ニ於テ調査ノ上意見書相添當所へ回送ノ等ニ付受付ノ上本縣へ進達可致候條右其筋ヨリ照會ノ紙ニ依リ此旨相達候事

●乾第六百六号

明治十九年六月七日

虎列刺病豫防諭示之旨無徹底候様取計ノ義今般内第六十一号ヲ以テ該相成候ニ付テハ部内人民へ聖駕諭示ノ周チ行届候様内可致此旨相達候事

明治十九年七月十日

傳染病豫防規則第十條ニ依リ虎列刺病等ノ死屍ヲ埋葬スヘキケ所ハ寺院内ノ墓地ニ於テ爲得ヘキモ人家等遠隔ノ墓地内ニ設定スヘキ旨縣令ヨリ訓示相成候條右ノ通取計ヲヘシ

此旨及内達候也

●乾第六百廿九号

明治十九年七月十二日

本年甲第六百六号布達消毒藥等準備方ノ義ニ付丙第八十八号ヲ以テ縣達相成候ニ付テハ右達ノ條項ヲ指抓準備セシメ猶其役場檢疫擔任筆生ヲシテ實際準備ノ有無ヲ實見セシメ事ニ當リ不指問様特ニ配慮スヘシ此旨相達候事

●乾第六百廿八号

明治十九年七月十日

虎列刺病死者埋火葬ノ儀ハ迅速ニ處置セサレハ傳播ノ恐レモ有之ニ付當分ノ内戸長ノ認許ヲ受ケル能ハサル場合ニ於テ右死者ニ限リ檢疫委員ヨリ別紙雛形ノ認可書附與候旨縣達相成候條無指支埋火葬可取計旨各管理者へ示達スヘシ此旨相達候事

(別紙)

用紙中折半 枚

認 許 証

何府縣何郡區何町村何番地

士族 平民

(或ハ何某何々)

何職業

何

某

右別紙死亡証書ノ通虎列刺病死者ナルヲ以テ何町村何^墓地ニ埋火葬スルヲ認許ス

檢疫委員

明治何年何月何日午^前后何時

石川縣官

氏名

印

第百三十二号

明治十九年七月十六日

本年六月甲第百号布達傳染病豫防消毒藥販賣代價等ノ届ハ正副ニ通指山サズヘシ此旨相違候事

明治十九年七月十七日

虎列刺病發生ノ節ハ迅速隔離法ヲ嚴行セサルヘカヲサレニ付右發病者アルトハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受サセ其旨檢疫支所ヘ急報可致候處中ニハ發病後數時間ヲ經テ醫ヲ招キ漸ク届出共甚シキモノハ死亡後届出スモノ有之斯ノ如ク届出方等遷延候テハ隔離等手後ノ相成爲^シニ他ヘ傳染ノ虞有之ヲ以テ今後右發病届出方等急巡ヲ要スヘク様特ニ注意スヘシ此旨内諭候也

今般訓第八六九号ヲ以テ虎列刺病終熄後施行ノ條項訓令相成候ニ付テハ御參考ノ爲メ汚水疏通圓溝芥溜改造方法ノ概略ヲ左ニ記載シ及御回條條斟酌施行相成尙疏通掃除方法便宜御取設ノ上御通報相成度此段申進候也

追テ別紙下水溝圓溝芥溜構造方ノ義ハ單ニ其方法ノ一端ヲ記載セルモノニ付詳細ニ付

テハ該専門家ニ於テ取調候様致度此段申添候也

下水溝

第一方煉瓦ヲ以テ卵圓形ノ暗渠ヲ疊ミ吐口ニ至ル迄テ漸次ニ勾配ヲ付シ之ヲ無害ノ地若クハ河水ニ通シ其暗渠ヲ木幹トシ之ニ陶製又ハ煉瓦石材ヲ以テ構セル支管ヲ接続シ一切ノ汚水雨水ヲ排除スルモノ

第二方溝底周圍ハ切石木板漆喰叩キ又ハ其他ノ材料ヲ以テ築造シ成ルヘキ覆蓋ヲ設ケ汚水雨水ヲ無害ノ地若クハ河海ニ排除スルモノ

上ノ二方ヲ施ス可能ハサル場合ニ於テハ止ヲ得ス如何ナル構造ニ論ナク一切ノ汚水雨水ヲ阻滯壅塞セシメスシテ之ヲ無害ノ地若クハ河海ニ排除スルノ方法ヲ設ルモ防ケナシ

一 厠 罎

第一方厠窩ハ其質緻密ナル木桶等ヲ以テ移動スルキ厠桶ヲ作り之ヲ厠窩ニ代用シ尿管ノ漏レルニ先クナ同様ナル他ノ受器ト交代ニシテ之ヲ除去スルモノ
第二方厠窩ハ其質密衣ヲ有スル陶品ヲ用イテ之ヲ地中ニ埋メ其周圍ノ表面ハ漆喰叩キ等ヲ以テ漏斗狀ニ築造シテ厠ニ達スルモノ上ノ二法ヲ施スルヲ能ハサル場合は於テハ止
コトヲ得ヌ如何ナル築造ニ論ナリ厠及其周圍ノ尿管ヲシテ地ニ滲透セシメサル構造ニ爲
スモ防ケナシ

一 芥 溜

第一方芥溜ハ蓋ヲ有シ屎芥ヲ掃除スルニ便ナル筈若シハ直ニ運搬スルヲ得ヘキ受器ヲ設置スルモノ
上方ヲ施スル能ハサル場合は於テハ止ムコトヲ得ヌ如何ナル構造ニ論ナリ汚汁ヲシテ地中ニ滲透セシメサル設備ヲナスモ妨ケナシ

訓令第十七号

明治廿年一月廿六日

從來民間中外施後汚穢物ヲ川流ヘ投棄スルノ弊有之候ニ相聞ヘ候處右ハ惡疫毒素萌芽ノ

媒介トナリ衛生上殊ニ注意ヲ要スルニ候ニ候條各町村ニ於テ墓地ノ一隅ノ區劃スルカ又ハ火葬場ニ於テスルカ或ハ便宜ノ地ニ於テ埋没又ハ燒棄ノ方法差支サル糞場所取極メノ
義本縣訓令第十一号ヲ以テ訓令相成候條右場所來ル二月十五日迄ニ届出スヘシ

訓令第十二号

明治二十年一月十三日

唐列刺毒殘毒未萌ニ防隔方ノ義ニ付テハ管テ通達置候處猶又今般汚水疏通方等ノ義ニ付内務大臣ヨリ別紙寫ノ通申候候趣ヲ以テ照知事ヨリ訓令ノ次條有之候條其部内ニ於テ適宜方法取設ケ該訓令ノ主旨徹底候様取斗フヘシ

訓第八六九号

明治十九年十二月三日

本年唐列刺病ノ發生スル諸各地方官ハ海陸檢疫ノ法ヲ嚴ニシ消毒撲滅ノ術ヲ盡シ拮据勉勵幾シテ積策ナカリシニ該病毒ハ全國ニ瀰漫シ今日ニ至ル迄已ニ患者拾五万余人死者拾万人ノ多ニ昇レリ蓋シ人事交通ノ頻繁ナル全ク消毒ノ實入ヲ拒絕スルハ極メテ難ク已ニ其侵入スルニ及テハ當初ニ之ヲ撲滅スルカトシテ若シ撲滅シ能ハサルハ患者ノ數ヲ減シテ其禍害ヲ輕少ニ止ムルヲ以テ防禦ノ目的トナサハルヲ得ズト雖モ該病毒ノ性質タル傳ヘテ汚濕不潔ノ地ニ至レハ其繁殖ト盛ニシ其毒ヲ送スルハ疑ナキ事實ナルカ故ニ未だ

ノ時ニ於テ土地ヲ清潔ナラシムルハ豫防中最モ堅要ナリトス然レモ從前ノ如キ系統ナキ
 下水溝又ハ其構造粗ナル厠園汚溜ニ對シ一時姑息ノ清潔法ヲ施行スルノミニテハ到底充
 分ノ効績ヲ収メ難キニ付今ヤ痲毒熱伏シテ其未ク萌動セサルニ先チ其管下市街ヲナシク
 ル地及ヒ市街ヲナサスル行ヒ得ヘキト認ムル場所ハ便宜相當ノ方法ヲ設ケテ先ツ左ノ三
 ノ改修ニ着手シ以テ清潔除害法ノ端緒ヲ啓キ豫防法ノ基礎ヲ固クシ本年ノ覆轍ヲ躡マサ
 ル豫注意セラルヘシ

一 汚水疏通法ノ一

一 尿管排除方ノ一

一 塵芥排除方ノ一

右訓令ニ

●訓第四百四十三号

明治廿年三月廿六日

本月三日訓令第五十二号ヲ以テ掃除施行方ノ義訓令及置候處今回更ニ別紙豫防法相定メ
 候處該法ニ基キ掃除着手シ尙將來右方法ニ依リ清潔方等施行上特ニ注意取計フヘシ
 但シ掃除着手ニ就テハ所轄警察分署ヨリ協議候義モ有之ニ付熟議施行スヘシ且掃除日
 限ハ該分署ト協議取極メ當廳ヘ届出スヘシ

痲毒豫防ノ法

第一條 左ニ揚クル各項ハ本年四月五日ヨリ五月五日迄施行セシムヘシ

- 一 家屋ノ内外ハ清潔ニ掃除ナシ中床下ノ塵芥ハ悉ク浚ハシムヘシ
- 二 下水及溝渠ノ掃除ハ其流脈貫通ノ者ニ於テ之ヲ行ハシムヘシ
- 三 掃除負擔者ナキ場所及道路ハ其町村ニ於テナサシムヘシ
- 四 下水ノ流脈溝渠ニ通セス裏口等ニ溜穴堀リ之ニ放流ナスモノハ最寄溝渠ニ通セシ
 ムヘシ若シ不得止場合ニ於テハ汲取ラシメ清潔ニナスヘシ
- 五 家屋ノ外側ニ沿フテ肥桶据置クコナカラシムヘシ若シ埋桶等ニシテ容易ニ移ス能
 クサルモノハ覆蓋ヲナサシムヘシ
- 六 家屋内ハ勿論宅地内及ヒ道路ニ沿フタル場所ニ於テ塵芥ヲ推積セシムヘカラス
- 七 飲用ニ供スル井泉ノ構造粗惡ニシテ厠園及下水水溝渠ニ接シ若シハ接セサルモノ
 ト雖モ汚水ノ滲入スルト認ムル者ハ井戸側壁石又ハ版板ヲ改修ナサシムヘシ
 但シ事情改修シ不能モノハ五月一日以後飲用ヲ差止メ他ノ善良ナルモノヲ用ヒ
 サスヘシ

- 八 前年虎列刺病アリシ家屋ノ便所ハ消毒藥ヲ注キ悉ク汲取ラシムヘシ
 - 九 各處拾場避病院アリシ地虎列刺病死者ノ火葬セシ地及排泄物ノ焼却地ハ清潔ニ掃除ナシ塵芥ハ焼却ナサシムヘシ
 - 十 前各項ノ塵芥ヲ捨テ及之ヲ焼却スル場所ハ豫メ指定シテ其町村ヘ示スヘシ
- 第二條 前年虎列刺病アリシ家屋ハ尙本年六月一日ヨリ同年同月三十日マテ一回又ハ二回悉ク掃除ナサシメ各處蒸チ行フヘシ
- 第三條 夏月温浸ノ候ヨリ冷氣ニ至ルマテ左ノ各項ヲ遵守セシムヘシ
- 一 家屋ノ内外等ハ清潔ニ掃除ソフ
 - 二 市街及多人集會スル場所并ニ前年虎列刺病患者アリシ家ノ便所ニハ消毒藥ヲ注キ藥力ヲシテハハサシムヘキ
 - 三 魚店獸肉店ニハ血液汚汗等ヲ溜メサルコ
 - 四 飲用ニ供スル井泉ハ一回以上浚フコ
 - 五 河水及不食水ハ濾過煮沸ノ後用ユヘキ
 - 六 不消化物及腐敗シ易キ物等虎列刺病ノ原因トナル食物用ヘサルコ

- 第四條 溝渠ニ凸凹アリテ疏通ノ妨ケアルケ所ハ漸時改修ナサシムヘシ
- 第五條 河川溝渠ニシテ不潔ナルケ所ハ掃除ヲ爲サシムヘシ
- 第六條 掃除ナシタル所及家屋ハ悉ク検査スヘシ若シ検査ノ際不充分ナル處ハ再三之ヲ諭シ尙肯セサルコ於テハ相當處分ニ及フヘシ
- 第七條 此方法施行ニ關スル費用ハ其一己ニ係ルモノハ一己ニ町村ニ係ルモノハ町村ニ聯合町村ニ係ル者ハ聯合町村ニ於テ支弁ナサシムヘシ
- 但一己ニ係ル費用本人貧困ニシテ支弁能ハサルモノアルトキハ其町村又ハ連合町村ニテ負擔ナサシムヘシ
- 訓令第五十九号 明治廿一年二月十八日
- 客年來管内各地ニ天然痘發生シ今猶終熄ニ至ラサルケ所モ有之今其實況ヲ視ルニ患者ハ嬰兒ニ稀ニシテ初再三種ヲ終ヘサル可カラサル者ニ厚キカ加シ思フニ種痘規則ノ嚴ナル且其良方アル能ク人ノ知處ナルモ或ハ農工其職業ニ汲々シ知ラス識ラス種痘ニ種後シ事斯ニ至リシモノモ亦尠カラサル可シ且頃日香港ニ於テ該病流行シ往々横濱港ヘ搭船シ來ルモノアリタメニ生省ヨリ特ニ通報ノ趣モ之レアルニ付此際接種セシムヘキ旨本縣訓令

ノ次第モ有之候條本月廿五日ヨリ來ル四月廿五日迄ヲ以テ當春季種痘期日定メ普ク種痘
施行スヘシ

但シ其着手日限等届出スヘシ

●訓令第八十九号

明治廿一年三月廿三日

金澤區北石坂町橋本貞衛製牛痘苗ノ備中ニハ接種後ノ結果不十分ノ間ヘモ有之右ハ昨年
内務省衛生局ニ於テ試験ノ上良成績ヲ得不都合ノ義ハ無之管ニ候得共其接種ニ當リ取扱
ノ完全ナラサルヨリ良成績ヲ得サル哉モ難シ候ニ付別紙接種心得書其筋ヨリ回送越候條
種痘器ハ其趣ヲ論スヘシ

(別紙)

近來牛痘苗使用スルニ當テ毛細管ノ痘漿ヲ硝子板上ニ滴シ然ル後適宜ノ(グリッスリン)或
ハ蒸溜水ヲ混和シ用ニ供スルモノアルナ開ク元來該管入牛痘苗タルヤ其内幾分カ(グリ
スリン)ヲ混合シ管内ニ納レタルモノナレバ其他ニ混合物ヲ加ヘテハ其真性ナル痘漿ヲシ
テ稀薄ナラシム(痘漿中ニ含有セル數多ノヘミソロコックンモ)故ニ確實ノ感受姓ヲ見ル
與ツス

管入痘苗一管ヲ三兒乃至五兒ニ接種セシ醫師ヨリ是等モ前ニ述ルカ加シ漿液不充分ニシ
テ無効ナリ依テ一兒一管乃至二管ヲ用ヒテ充分ニ接種シ殘餘ノ痘漿ハ鍼頭ヲ以テ鍼痕ニ
塗擦スヘシ

管入痘苗ハ接種心得用紙ニ記載シタル如ク硝子板上ニ吹出シ能ク攪和シテ用ニ供スヘシ
管入痘苗ヲ使用スルニハ成ルヘシ粗製ニ鍼ヲ用ヒサルヲ佳トス

管入痘苗ヲ三シ種兒ニ接シ其痘性ノ佳否ヲ辨スルアリ再三種兒タル多分ハ感受性ナキ者
ナレハ種痘スルモ不感感者多シ(其内感染者アルモ真痘ハ)之ヲ痘苗ノ不長ト見效シテハ
甚ク進マズアリ

初種ニシテ善良ノ痘苗ヲ接種スルモ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ由ル者有アル故ニ三四
週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スルヲ佳トス

●訓令第九十二号

今般訓令第八十一号ヲ以テ溝渠下水等掃除方ノ義和適置候ニ付テハ所轄警察本分署又ハ
巡查駐在所ヘ協議シ右掃除着手日制取極メ極至急届出スヘシ
但水文掃除方法ハ別ニ相違スヘシ

訓令第九十一号

明治廿年三月三十一日

今回掃除施行方訓令及候ニ付テハ右施行手續別紙ノ通り取極メ夫々相示シ不差支様取斗
フヘシ

消毒豫防法施行手續

- 第一項 家屋内外ノ掃除スヘキケ所左ノ如シ
 - 一家根及ヒ天井裏并ニ二階
 - 一戸建具及押入
 - 一疊敷物
 - 一床下
 - 一流石
 - 一井戸際
 - 一下水及溝渠
 - 一便所
 - 一道路

一庭園

一外側

- 右清潔ニ掃除セシムル者トス若シ敷物ノ汚濁シタル者ハ日光ニ曬曝セシムルモノトス
- 第二項 明家ハ持主ニ於テ負擔セシムルモノトス
- 第三項 豫防法第一條三項及九項ハ町村ニ於テ人夫ヲ雇ヒ行ナハシムルモノトス
 - 同條八項ノ消毒藥ハ綠礬若シハ昇汞水ヲ用ヒシムルモノトス
 - 同條十項ノ屋脊焼却場所ハ戸長役場ト協議スヘキ者トス
- 第四項 町村ニハ適宜ノ人夫ヲ雇ヒ當日掃除ノ塵芥ヲ取集メ一定ノ場所ニ運ヒ焼却セシ
ムルモノトス
- 第五項 掃除及改修ハ其當日午前十時迄ニ終ルモノトス但晴日ニ限ルヘシ
- 第六項 前數項ノ手續及ヒ消毒豫防法ノ事項ハ警察官戸長ト協議ノ上豫メ町村總代ニ該
示シ當日迄ニ掃除及改修ヲナサシメ置之ヲ検査スルモノトス
- 第七項 掃除當日ニ掃除或ハ改修ヲ行ハサル者ハ日期シテ掃除或ハ改修ヲナサシメ更ニ
検査スルモノトス

訓令第一号

明治廿年四月九日

本年一月訓令ノ趣ニ依リ種痘施行ノ義ハ最早普及候義ニ有之候ヘ共中ニハ天然痘流行ノ際ニ種痘候ヲハ却テ不良ノ結果ヲ來クシ候節ノ風説ニ迷ヒ自誤厭忌候向モ有之哉ニ相聞候然處頃日江沼郡大聖寺福田町平民久平次男金澤定吉(年齢七ヶ月)義天然痘潜伏期ニ當リ牛痘接種シ種痘潜伏期ニ違ズルニ及テ其前ニ感染シタル天然痘ヲ併發シタル者之アリ候經過ヲ徵スルニ善良ニシテ天然痘毒ヲ輕減シ滿面發痘セシモノノ痕毒ヲ殘サス全ク種痘善感ノ功德ニ依リ加此善結果ヲ得候旨實驗上ノ申出ノ趣有之候ニ付テハ右風説ニ沿マズ普及接種候様其筋ヨリ照會ノ次第有之候條右ノ如ク接種普及方取計フヘシ

訓令第百廿八号

明治廿二年五月十一日

今般市街村落清潔法及ヒ厠園改造施行候處厠園改造ノ議ハ人民各自ノ負擔ニ屬スルヲ以テ其難易計止ム事ヲ得ス該法中漸次改造スヘキ其緩急ヲ前スト難ト成ルヘシハ速ニ施行セシムヘキ主意ナルニ依リ先ツ郡區役所戸長役場學校等ノ如キハ第一着ニ之ヲ實行シ以テ其他ヲ督促セサレハ速ニ其効ヲ見ルヘカラサルニ付其主意ニ依リ至急着手スヘシ旨訓令ノ次第有之候條右様相心得迅速改造方着手スヘシ

訓令第百卅一号

明治廿年五月十二日

今般石川縣訓令第百十五号ヲ以テ各戸長役場ニ於テ石炭貯備ノ義訓令相成候ニ付テハ該訓令ノ通條ヲ充分準備シ世々差支サル様取扱フヘシ

訓令第百卅九号

明治廿年五月十七日

昨年虎列刺病流行ノ際遮斷ノケ所ヘ巡查ヲ派遣シ取締爲致候處今回巡查配置法改正駐在所ヘ散在セシメタルヲ以テ万一本年該病アルモ遮斷取締ハ巡查使用スル能ハサル場合モ不遑版其筋ヨリ照會有之候條右様相心得該病ノルニ際シ取締方不指支様其役場ニ於テ豫テ計畫配置フヘシ

訓令第百卅八号

明治廿年五月十七日

今般市街及村落清潔法施行相成候ニ就テハ今ヤ時機漸々温暖ニ向ヘタルヲ以テ掃除法ノ如キハ來ル六月十日ヲ期シテ實行シ其他改造ニ係ルモノハ同六月中ニ着手ノ順序割合ヲ定メ稟議ノ上施行スヘシ

訓令第百五十八号

明治二十年五月三十一日

今般取調ノ次館有之候條本年一月ヨリ本月三十一日迄ニ種痘人員別紙書式ニヨリ取調可

差山百訓令相成候條來ル六月二十日限取調無違届出スヘシ

●訓令第百六十四号

明治廿年六月六日

飲料水ノ良否ハ疾病ノ原因トナリ高テ清淨ナラシムヘキハ更ニ言テ驗ケサル處ナリト雖トモ兎角舊慣ノ久キ毫モ介セサルモノアリテ近來流行セル惡疫ノ媒介ヲ爲スハ其例ニ乏シカラズ之レカ改良ヲ計ルハ實ニ目下ノ急務ナルヲ以テ今般市街及村郷清潔法追加セラレタル概モ有之候條右ノ旨趣ニ依リ適宜施行ノ方法ヲ定メ迅速飲水ノ適宜ヲ檢査セシメ其不適當ノモノハ此際宜ク改良セシムヘキ旨訓令相成候間至急右ノ通取計フヘシ但該方法相定メ候ハ、其概届出スヘシ

●訓令第百六十七号

明治廿年六月八日

客年五月乾第九十五号ヲ以テ相違候種痘明細表ノ義ハ這回本縣訓令第百四十三号ヲ以テ表式ニ照准毎一年調製翌年一日限差出スヘシ

●訓令第百七十四号

明治廿年六月十五日

醫師ノ中毒患者ヲ診斷治療シヨルル届出方之義今般水縣訓令第百五十二号ヲ以テ訓令相成候ニ付テハ右訓令ノ旨概部内私立病院一般開業醫へ諭及致スヘシ

●諭旨第一号

明治廿一年七月廿一日

虎列刺病ノ恐ルヘキハ今更喋々言テ俟ダス然リ而シテ之レヲ未發ニ防クハ單ニ自各ノ豫防注意ニアリ今ヤ時下極暑ニ迎ヘ方一之レカ豫防ヲ怠ルルハ何時該病ヲ發生センモ期スヘカラス殊ニ本縣内ニテハ金澤區ニ於テ己ニ該患者一名アリタリ此際豫防緊要ニ付部内人民集合セシムル等適宜方法ヲ設ケ別紙豫防心得聖駕前諭ニ及ヒ貫徹條様注意盡力スヘシ

惡疫豫防心得

- 一 下水及屋芥ハ人家ヲ隔グル無害ノ地ニ排除スルヲ宜トス
- 一 毎日一回以上日出前又ハ日没後必ス溝渠ヲ浚渫シ淤泥ハ人家ヲ隔グル無害ノ地ニ埋却若クハ投棄スルヲ宜トス
- 一 室内及邸地ハ日々清潔ニ掃除スルヲ宜トス
- 一 便所ハ可成前尿ノ充ツルヲ俟ツ時々汲取リ防臭藥ヲ撒布スルヲ宜トス
- 一 但シ曾テ虎列刺病アリシ家ハ勿論劇場寄席料理店旅人宿ハ一會ノ注意ヲ要ス
- 一 井戸側破損又腐朽ノ爲メ惡水滲入スルモノ又ハ井戸端破壊シ下水滲入スルモノハ直チ

- 一 修補若クハ改造シ且常ニ蓋ヲ以テ掩フヲ良トス
- 一 井水ハ夏季少クモ二回汲換スルヲ良トス
- 一 井戸端ニテ不潔物(糞尿等)ヲ澆注セサルヲ良トス
- 一 飲料水ハ試驗成績ノ優良ナル者ヲ用キ若シ不得止シテ河水等ヲ飲料ニ供セントスルトキハ濾過装置シテ用ユルヲ良トス
- 一 飲酒ハ少量ハ害ナシト雖モ多量ハ固ヨリ宜シカラズ
- 一 食物ハ新鮮ニシテ消化シ易キモノヲ撰ニ飯令消化シ易キモノト雖モ飽食ハ決シテ良カラズ
- 一 不熟ノ果物ノ可成的食セサルヲ良トス
- 一 腐敗ニ傾キタル飲食物ハ決シテ良シカラズ
- 一 衣類ハ寒暖ニ應ジテ若シ可然布帛ヲ以テ腹巻ヲナスヲ良トス
- 一 衣服ハ澆濯シテモノチ度々着換ユルヲ良トス
- 一 一日ニ一回ハ必ス入浴シ身体ヲ清潔ニスルヲ良トス
- 一 濕ヘル衣服ヲ着シ或ハ雨濕夜涼ヲ冒シテ歩行シ或ハ夜中戸ヲ開キテ眠ニ就サルヲ良

訓令第百六十二號

明治廿年七月十四日

世浴是ウツギト稱スルモノ、恐ルヘキコトハ去ル十三年水縣ヨリ告八番ヲ以テ告諭ノ趣モ有之候處兎角兒童ノ如キ頃日實ノ成熟紅美ナルヲ愛シ之ノヲ食スル爲メ住々中毒ニ罹ル者有之趣相聞候ニ付テハ此際戸長ニ於テ警察官ハ協同シテ遠ケ精々取調根株悉皆燒却候様本縣訓令相成候ニ付右様相心得至急施行方以計フヘシ

訓令第百二十八號

明治二十年八月八日

今般市街及村落清潔法施行相成候ニ就テハ清潔法第八條ニヨリ改築ニ際シ其地主ニ於テ肯セサルトキハ土地買上規則ニ基キ伺出スヘク義ト心得ヘシ

訓令第百四十八號

明治二十年九月二十一日

市街及村落清潔法ニ依リ飲料水試驗ノ義ハ追々施行ニ相成候ニ付テハ其結了ニ至リ候ハ試驗ノ非戸數共成績何チ上中下ノ區別詳細取調届出スヘシ

訓令第八號

明治廿一年壹月六日

村落清潔法施行順序小松警察署ト協議シ別紙ノ通り極メ輕便ノ末施行候條該法ニ依リ若

手方等取計フヘシ
右訓令ス

市街清潔法施行順序

- 第一項 水郡ニ於テハ市街清潔法第一條ニ前スモノ、外濠粟津辰口寺井申茶屋ノ五ヶ村ハ市街ニ準シ施行スヘシ
- 第二項 下水溝改築スヘキモノハ豫テ木支細管ヲ調査シ大体ノ意見ヲ定メ改築ノ模様及ビ木石ノ使用等ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ郡長ヘ伺出スヘシ
但シ市街清潔法第四條ノ構造法ニヨリ實行ナシ能ハサル者ハ同法第七條ノ方法ニ依ル事ヲ得ヘシ
- 第三項 前項ノ改築調査ハ明治廿一年三月三十一日迄ニ伺出テ改築俊成ハ同年十二月三十一日ヲ期スヘシ
但シ本文期限内ニ改築俊成シ難キ者ハ理由ヲ詳記シ調査伺出ヲナスト同時ニ之ヲナスヘシ
- 第四項 厠圖ノ改造ハ明治廿一年六月三十一日迄ニ俊成スヘシ

- 但該期日迄ニ改造ナス能ハサル事由アル者ハ同日マテニ届出スヘシ
- 第五項 市街清潔法第十三條ニ前ス學校以下ノ厠圖ハ明治廿一年三月卅一日迄ニ必ス改造施行スヘシ

但シ非戸ヲ隔ツル厠間以内ノ厠圖ハ本項期限内ニ施行スヘシ尤同日迄ニ改修シ能ハサルハ前項但書ニ依ルヘシ

- 第六項 芥溜及掃灰方ハ明治廿一年三月一日ヨリ施行スヘシ

- 第七項 市街清潔法第二十條ノ水質検査及ヒ第廿三條ハ明治廿一年三月三十一日マテニ之ヲ了ルヘシ

但水質不良ニシテ飲用スル能ハサル者ハ其所有主姓名住所所在地ヲ記シ郡役所及警察署同分署ヘ届出スヘシ

- 第八項 本法第三項第四項及ヒ第五項但書ニ當ル者ハ猶塚スルト雖モ明治廿二年六月ヲ過クヘカラス

村落清潔法施行順序

- 第一項 村落清潔法第二條第三條第四條第六條第八條及第十條但書ヲ除ク施行ハ明治廿一

年中ニ終了スヘシ

但シ左ニ記載シタル戸長役場部内ハ明治廿二年六月迄延期スル事ヲ得

白峯村 女原村 別宮村 釜清水村 大杉村 尾小屋村

第二項 前項施行ノ方法及ヒ見込ハ明治二十一年三月三十一日迄ニ戸長ヨリ郡長へ届出スヘシ

●訓令第百五十六号

明治廿一年七月二日

今般諭示第三号ヲ以テ別冊冷水養生法ハ目下緊要適切ノ授業タル概特諭相成候ニ就テハ獨リ學校ノ事トナラス戸長役場等ニ於テ便宜勸奨候様其筋ヨリ照會越候條所轄人民へ普ク諭達ノ趣旨貫徹候様取計フヘシ

◎土木ノ部目次

● 玄三十四号	明治十三年	土一丁
● 玄三十三号	明治十四年	土六丁
● 玄五号	全	土七丁
● 玄八号	全	土八丁
● 丙第三号	全	土九丁
● 能地六十五号	明治十五年	土十丁
● 能地七十四号	全	全
● 地壹号	明治十六年	全
● 能地四十四号	全	土十二丁
● 能地五十三号	全	土十二丁
● 能地五十三号	全	土十五丁
● 能地百三十二号	全	全
● 能地四号	明治十七年	土十六丁
● 玄四號	全	全

年中ニ終了スヘシ

但シ左ニ記載シタル戸長役場管内ハ明治廿二年六月迄延期スル事ヲ得

白葉村 大原村 別宮村 釜清水村 大杉村 尾小屋村

第二項 前項施行ノ方法及ヒ見込ハ明治三十一年三月三十一日迄ニ戸長ヨリ郡長ニ届出
スヘシ

●訓令第百五十六号

明治廿一年七月二日

今般諭示第三号ヲ以テ別冊冷水従生法ハ口下緊要適切ノ授業ナル概特論相成候ニ就テハ
獨リ學校ノ事トナラス戸長役場等ニ於テ便宜勸奨條條其筋ヨリ照會候條所轄人民ニ普
ク諭達ノ趣旨貫徹條條取計ンヘシ

○土木ノ部目次

●玄二十四号	明治十三年	土一丁
●玄一号	明治十四年	土六丁
●玄五号	全	土七丁
●玄八号	全	全
●丙第二号	全	土八丁
●玄十一号	全	全
●能地六十五号	明治十五年	土九丁
●能地七十四号	全	土十丁
●地壹号	明治十六年	全
●能地四十四号	全	土十一丁
●能地五十二号	全	土十二丁
●能地五十三号	全	土十五丁
●能地百三十一号	全	全
●能地四号	明治十七年	土十六丁
●玄四號	全	全

●能地六十五號	全	全	土卅二丁
●能地六十四號	全	全	全
●乾三十二號	全	明治十八年	土卅二丁
●乾六十九號	全	明治十九年一月十五日	土卅五丁
●訓示	全	明治十九年	土卅三丁
●乾五十六號	全	全	土卅二丁
●乾百三十五號	全	全	全
●訓令第六號	全	全	土卅三丁
●告示第三號	全	全	全
●訓令第百十四號	全	全	全
●訓令第百二號	全	明治二十年	全
●訓令第三十三號	全	明治二十一年	土卅八丁
●訓令第百二號	全	全	全
●訓令第百十六號	全	全	全
●訓令第百三十五號	全	全	土卅九丁
●訓令第百七十二號	全	全	全
●內第四十號	全	全	全

●內第四十三號	全	全	全
●訓令第四十二號	全	明治二十二年	土四十丁
●內第二十七號	全	全	全
●乾九十三號	全	明治十八年	全

郡規類集

土木ノ部

◎玄廿四号(明治十三年七月廿七日)

新道開鑿或ハ道幅取廣等出願ノ向書面主要ト欠キ爲ニ屢往復ヲ要シ調査方遷延候而已ナ
ラヌ手數モ亦不趣旨其筋ヨリ照會ノ趣モ有之候條自今出願候節別紙條目及ヒ離形ニ照準
遠測査進呈可致此旨相違候事

(別紙)

願書面并附屬摘要ノ條目

- 一願書ニ除祝之義記述之事
- 一該地并周圍之地形耕宅地等着色以區分シ每筆區畫等ヲ顯シタル詳細ノ圖面ヲ附ス
ヘキ事
- 一地主承諾捺印書面ヲ附スヘキ事
- 一隣接町村ノ承諾捺印書面ヲ附スヘキ事
- 一該地調書ヲ附スヘキ事

是ハ別紙雛形ニ照準書認ムヘシ

以上

遺地調査

何國何郡何町地内

何村

遺地地主

何ノ業印

字番号

一口或ハ畑反別、、、、

宅地等

此地價、、、、

此地租、、、、

同

外附屬畔反別、、、、

右ハ一筆皆遺地ノ書式

何村

字番号

内遺歩切捨歩地主何ノ業印

一何反別、、、、

此地價、、、、

此地租、、、、

内何錢何厘減ス

内何厘減ス

内譯

反別、、、、

遺地

此地價、、、、

此地租、、、、

外畔反別、、、、

反別、、、、

殘生地

此地價、、、、

此地租、、、、

外畔反別、、、、

右ハ一筆之内若干遺地ノ書式、ノ一部付地ハ非位市街地、均位ニ止メ以下ノ遺地ハ其皆切捨地留地租ヲ算出致スヘシ
但殘生地自然減價書、ニ相成テノ、一筆内甲乙ヲ以分別、反別留地租ヲ算出スル者ニ準ス

潰地合計

反別、、、、

此地價、、、、

此地租、、、、

外畔反別

内譯

何反別

此地價、、、、

此地租、、、、

殘生地合計

反別、、、、

此地價、、、、

此地租、、、、

外畔反別、、、、

内譯

何反別

此地價、、、、

此地租、、、、

何反別、、、、

此地價、、、、

此地租、、、、

右ノ如ク一ヶ村毎合計ヲ附シ若シ敷町ニ跨ル新道ハ各村別册ニ認ムヘシ
右之通相違無之候事

何 村町

何 ノ 某 印

何 村町

何 ノ 某 印

年 号 月 日

舊道取反別證書

一反別、、、、

不用道敷

内譯

反別、、、、
反別、、、、

何郡何町地内
何郡何町地内

是ハ何々ニ付無代御下渡願ノ分

右ハ舊道敷不用ニ属スル分新道遺地爲代無代價下渡ナ情願候分ノ書立ナリ故ニ遺地調査
ト別途ニ相認添テ申出スヘシ
右ノ通相違無之候也

年号月日

何町

何ノ某印

何町

何ノ某印

●玄一号(明治十四年二月七日)

昨明治十三年七月玄二十四号ヲ以新道開鑿或ハ道幅取廣等山願之節極要ノ廉々違置候處今
回左ノ條目増補候旨其筋ヨリ照會越候條自今出願之際無遺漏可取謂此旨相違候事

増加

- 一新道敷地土地ノ有無官有地ニスルカ又ハ民有地ニ措置カナ云 辭カニ書載スヘキ事
- 一舊道遺スヘキ分ハ反別及拂下又ハ代地等ノ見込ヲ書載スヘキ事
- 一舊道存スヘキ分ハ其所由ヲ具サニ書載スヘキ事
- 一道路附換ノ消費且將來維持等ノ事

但用票水溜池新設及附換等ノ類モ此例ニ據ル

●玄五号(明治十四年一月廿八日)

各池川岸附石垣木柵等官民有ノ別ナク新築或ハ修繕ノ節總テ出願可致之處往々自儘ニ起
功候者有之瓶相同有ハ自然舊形ヲ變換候モ難計甚不都合不勘候條將來有等ノ義無之様今
般丙八番懸違ノ瓶ニ有之候條其意ヲ体認シ自今其都度出願候様部内ニ重論置クヘシ此旨
相違候事

●玄八号(明治十四年二月十八日)

今般別紙ノ通り丙第二号被達候ニ付自今厚ク注意致シ官林ノ利害ニ係リ見聞候義有之節ハ速ニ山林局出張所へ申報可致旨相違候條此旨相違候事

◎丙第二号(明治十四年一月十九日)

其縣下官林事務ノ屬ハ當行山林局出張所ニテ取扱候得共官林内火災風損蟲害盜代其他都テ官林ノ利害ニ付テハ郡區長戸長等ニ於テモ平常注意可致ハ勿論ニ付右等發見候節ハ速ニ山林局出張所へ申報シ且差置難キ場合ニ於テハ直ニ防禦取締方ニ從事シ一層保護取締上注意可致旨兼テ郡區長戸長等へ相達置可申候此旨相違候事

◎亥十一号(明治十四年三月十六日)

今般水縣土八番ヲ以テ別番ノ通り達相成候ニ付テハ其意ヲ体認シ心得違小致様部内人民へ示達置へシ此旨相違候事

■土八番(明治十四年三月九日)

客年十一月第四十八号公布ヲ以テ府縣土木即チ河溝道路、防橋、梁建築修繕費中官費下渡金來ル十四年度ヨリ被相廢候ニ付テハ地方稅規則ニヨリ該金ヲ以テ支弁或ハ補助スヘキ筈ニ候處河川ノ儀本年未曾有ノ降雪春暖ニ際シ一時融解暴漲フルルハ堤防川除ノ損壞破壞當ナラス

ニ巨額ノ工費ヲ要スルニ至ルヘシ然リト雖モ地方稅ノ徵收程度アリ無限ノ供給ニ應スヘカラヌ尤本年六月迄ハ舊來ノ慣法ニ據リ施行スヘキ筋ニ候得共定額ノ官費ハ己ニ殘余無之亦奈何スヘカラス然レモ少シク修繕ヲ怠レハ終ニ大破ヲ醸シ耕地ヲ流亡シ人家ヲ蕩流スルニ至ルナリ此際部内地掛組人民ニ於テ精々注意可成協賛實ヲ以テ急防及ヒ修繕候様可致又道路ノ儀十四年度ニ於テ修繕ヲ要スル場所ハ多ク改良ヲ主トシ險ヲ夷ニシ曲ヲ直ニシ或ハ新道ヲ開キ橋梁ヲ架スル等ノ事業ヲ創立スルノ見込モ有ク處堤防ニ比スレハ直接ノ危害アラサルモ堤坊ニ巨額ノ金圓ヲ要スルルハ亦流用セサルヘカラス故ニ普通ノ修繕等ハ速モ行届ク間取就テハ本年翌年ノ上各郡區ノ舊川ニ據リ可成堅牢ニ修繕候様可取候此旨相違候事

◎能地六拾五号(明治十五年八月十二日)

本年甲三十五番布達中道路橋梁堤防波除等工費負擔之區域ハ從來ノ水下組合町村ハ勿論其他關係アル町村ニ於テ議決シ會則ノ裁定ヲ請フヘキノ處未ク其義無之有ハ兼テ配慮中ノ筈ニ候ヘ共己ニ十五年度ニモ推移リ候ニ付テハ尤モ至急之決定ヲ要シ候條此上一層注意致シ速ニ相運候様可取計旨相違有之候條各部内ニ於テ右關係ノ向ニ懇川ノ上誠精相運

候様可取計此旨相達候事

但寒村僻地ニ有ツテ正當ノ會議ヲ要セス人民便宜ヲ以關係ノ有無協議決定候向ハ至急
其旨當廳ニ届出サスヘシ

●能地七十四号(明治十五年九月十四日)

本年甲三十五番有連第一條道路橋梁ヲ除ク地ノ道路橋梁等工費負擔ノ區域制定方ニ付町
村會又ハ聯合町村會開設ノ手續ニ相連ヒ且ツ寒村僻地ニ有ツテ正當ノ會議ヲ要セス人民
便宜ヲ以テ協議決定ノ向共届出方等客月能地六拾五号ヲ以テ相達候處今以テ何等届出
ノ向モ無之右ハ豫テ懸達ノ趣モ有之候間今一層注意致シ本月三十日限何分ノ義可申出此
旨相達候事

●地澄号(明治十六年二月十六日)

北陸道線水郡小松市街貫通スル梯川非常出水ノ際該川架設ノ字梯大橋防禦方ノ義ハ隣傍
左ノ町村ヲシテ負擔セシメ爾來其都度速ニ町附厚ク盡力致スヘシ此旨該町村ニ廣告候事

梯大橋町附町村名

小松各町

白江村

漆村

上小松村

園村

小寺村	金屋村	一針村	平面村	小杉村
千代村	能美村	下ノ江村	中ノ江村	高坂村
蛭川村	松梨村	御館村	犬丸村	大島村
小島村	島田村	梯村	上牧村	下牧村
山口釜屋村	長崎村	根上リ村	坊丸村	鶴ヶ島村
鍛冶村	中野村	長野田村	荒屋村	

●能地四十四号(明治十六年三月廿二日)

河川之水源及ヒ脈絡之義ハ治水事務上必要之者ニシテ甚ク確實ヲ要スル義ニ付河川ノ廣
狹長短ヲ論セス川ト稱スルモノハ洩シナク別紙書式ニ照準取調可差出旨縣達相成候條本
年四月三十日限リ無違取調可届出此旨相達候事

何郡何川水源調

幹川 何々川

又何々川何々 水源ハ何國何郡何村(又ハ)何々ヨリ發シ何國何郡何村(又
川トモ云フ

ハ何々村ノ間ヲ流レニヒテ何海(又ハ何瀨ニ入ル)

枝川 何々川

又何々河何々 水源ハ何國何郡何村(又ハ)何々ヨリ發シ何々村ニ至テ何々
川ト共云フ

川ニ入ル

何々川

派川 何々川

又何々川何々川ヨリ何國何郡何村ニ於テ分レ何國何郡何村ニ至テ何川トモ云々川(又ハ何海)ニ入ル

何々川

小枝川 何々川

又何々河何々川トモ云々水源何國何郡何村(又ハ)何々ヨリ發シ何々川ニ入ル

何々川

單川 何々川

又何川トモ云々水源ハ何國何郡何村(又ハ)ヨリ發シ何々村ニ至テ何々海(又ハ)ニ入ル

何々川

何々川

●能地五十二号(明治十六年四月七日)

丸山村等大杉村金平村等女原村等瀬領村等和氣村等佐野村別宮村和佐谷村等土室

村高坂村等白峯村等ヲ除ク
舟掛ヲ通スヘキ河川ノ航路里程并其運糧品概額等取調方其筋ヨリ途ノ瓶モ有之別紙離形ニ照准可差出旨縣達相成候條本月三十日限り無違失可届出此旨和澤候事
但舟掛ノ通スヘキ河川無之向ハ本文期日迄ニ其旨届出スヘシ

離形
一航路長何里何町何間
但幹支派ヲ合シテ其長サヲ記載ス何川ノ他縣若シハ他ノ郡區ニ跨ルモノト雖モ各郡區限リ記載スヘシ
右航路ニ據リ運輸スル物品概額
一何駄

- 一例 何駄 水郡ニ發シ本郡區ニ於テ陸揚ケ分付スルモノ
- 二例 何駄 水郡ニ發シ海港ニ至リ海運又ハ陸運ニヨリ他郡區ニ輸送スルモノ

- 二例 何駄 本郡ニ發シ下流ノ他郡ニ輸送スルモノ
- 三例 何駄 上流ノ他郡ニ發シ本郡ニ陸揚分卸スルモノ
- 四例 何駄 上流他郡ニ發シ本郡ノ港ニ至リ海運又ハ陸運ニヨリ他郡ニ輸送スルモノ
- 五例 何駄 上流他郡ヨリ本郡ヲ經テ他郡區ニ輸送スルモノ
- 六例 何駄 上流他郡ヨリ本郡ヲ經テ他郡區ニ輸送スルモノ
- 七例 何駄 本郡ニ發シ下流ノ他縣ニ輸送スルモノ
- 八例 何駄 上流ノ他縣ニ發シ本郡ニ陸揚分卸スルモノ
- 九例 何駄 上流ノ他縣ヨリ發シ本郡ノ港ニ至リ海運又ハ陸運ニヨリ他縣ニ輸送スルモノ

拾例 何駄 上流ノ他縣ヨリ發シ本郡ヲ經テ下流ノ他縣ニ輸送スルモノ

此間方ハ幹支毎ニ何處ヨリ發出シ何處ニ上陸スル等各々處毎ニ取調積算ノ間重複無クシ勉ムヘシ又何川ノ他郡區ニ跨ルモノハ三例以下ノ例ニ準ジテ上例以下ニ依ル

但物品ノ重立タルモノ

- 何品
- 何品
- 何品
- 何々
- 以下準ズ

●能地五十三号(明治十六年四月九日)

道路橋梁堤防波除修繕工費負擔ニ難耐分ニシテ客年甲三十五番右達ノ手續ヲ履行シ得サル向ハ本年ニ限リ特別除議可相成義モ可有之旨客月三十一日能地五十三号ヲ以テ相違當候就テハ右旨趣ニ泥ミ區域制定方相忘リ候様ノ義ハ決シテ有之旨照會ニ候得共万一心得違ヨリ差支經過候テハ不相濟義ニ付此ノ邊深ク注意シ本月中是非相纏リ候様可致此旨念違候事

◎能地百三十一号(明治十六年九月三日)

這回甲七十五番ヲ以テ道路堤防橋樑被除其關係町村ノ負擔ニ不耐シテ地方稅ノ補助ヲ請ハント欲スルモノ出願期限達相成候ニ就テハ期日ニ相後ノ願路ヲ失セサル様法可致ハ勿論ノ義ニ候得共萬一時日ヲ愆リ候テハ人民ノ不幸不少義ニ付一層注意可致此旨爲念相達候事

●能地四号(明治十七年一月十四日)

一昨明治十五年甲三十五番有達ニ基キ道路橋樑堤防被除工費負擔ノ區域制定方ノ義ニ付一昨年來數回相達置候義モ有之候處未シ區域決定ノ場合ニ相廻ハス中ニハ今ニ會則裁定方伺出サル向モ多々有之右様等關ニ措候テハ甚ク不相濟且ツ客年十二月十三日付内達第壹項但書協議費支出過減ノ特法モ有之候處津並繩過候テハ歸スル處人民ノ不幸ニ可相成候條可成區域廣闊ヲ旨トシ會則ヲ編製シ本月三十日迄ニ裁定方爲伺出協議會ニテ決定ノ向ハ同日マテ其願未届出候様相達可致此旨相達候事

但區域制定方悉皆取リ纏リタル向ハ其旨明記シ本文期日迄ニ届出スヘシ

●玄四号(明治十七年二月二十三日)

水害表調制ノ義ニ付明治十四年十一月十一日能地七十一号ヲ以相達置候處更ニ別冊ノ通改正候條

已來水害ノ都度該表調整進達スヘシ此旨相達候事

但表用紙ハ入用ノ都度請求方申出スヘシ

水害表調査概則

第一則

一水害表調査方ハ各河流域内其所管町村限ノ損亡ヲ悉ク代價ニ積リ之ヲ通計シテ損金高ヲ一目ノ下ニ瞭然クランヲ要ス故ニ流亡毀損セシモノハ各其員數及相當價金(人民ヲ除ク)ヲ見積リ之ヲ合算スヘシ

第二則

一海岸ノ地ハ暫ク流域ニ用サス唯其景況ト損亡代價ト而已ヲ掲ケ以其缺ヲ補ハントス因テ今回概則中更ニ海岸ノ一項ヲ增加ス

第三則

一本表ノ初ニ管轄國名等ヲ掲ケタル缺字ノ位置ニハ其國名及ヒ河名ヲ加書スヘシ例ハ手取川ノ水害表ナレハ加賀及ヒ手取ノ四字ヲ填入スルカ如シ

第四則

生野ハ山野ノ部ニ記載スヘシ又通計ト目下凍餓トノ間ニ空欄ヲ設クルモノハ其被害ノ物若シ表中名稱何レノ所ヘモ編入シ難キ波止場等ノ類シレハ更ニ其名目ヲ起シ他ノ例ニ準據登載スヘシ

第十則

一損亡價金ノ積方ハ則流亡又ハ毀損スル所ノ物料現時ノ價格ヲ以テ計算ス而シテ其常ニ賣買スルモノハ價格ヲ得ル易シト雖モ常ニ賣買セサル道路堤防等ノ如キハ容易ニ其價格ヲ得ル難シ此ノ如キノ類ハ其再築ノ費金概算ヲ記載スヘシ若シ再築セサルカ又ハ舊價ノ如ク築造セサルモ反リニ舊形ニ復スル工費ノ概計ヲナシ其金額ヲ登記スヘシ

第十一則

一沿海地ノ水害ハ表題ノ部ニ何所海岸ト書シ河流域内ノ四字ヲ塗抹シ又上部ニ於テハ罹害ノ部而已ニ記載ス其他重要數量損亡代價等ニ至テハ他ノ流域調査方ニ異ルナシ

第十二則

一水表ノ未檢トアル欄ハ空白コナシ置キ奉トナル欄内ニハ戸長ノ官姓名ヲ著シ捺印スヘシ

●能地六十五号(明治十七年七月七日)

町村屬土木費補助額出方之議ニ付別紙之通舊戸長役場ニ相達候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

●能地六十四号(明治十七年七月七日)

町村ニ屬スル道路橋梁堤防波除等工費補助員取扱ニ付本年二月能地十四号ヲ以相達候條趣モ有之候處區町村會法改正ニ依リ即今右達ヲ實施スル能ハス乃々今回縣達ノ趣有之荷十七年度限舊例ニ依リ補助ノ餘額可相成候條管テ同年度工費豫算調査之際補助之義申出ノ町村ニ前達ノ客半申七十五番右達ニ依リ願書可爲差出此旨相達候事

但新仕戸長ヘ事務引渡前本願差出サ、ルルハ其施工ケ所等詳細新任戸長ヘ申送リ出願期日遷延セサル様注意スヘシ

區町村ニ屬スル土木費用ニ對スル金若干以内地方稅ヨリ補助セラルヘキ旨指令ニナリテカモノハ該工ノ上出来形ノ調査ヲ經テ初メテ補助金ノ正額ヲ極メ得ヘキモノナレハ最前ノ指令ニテハ處ノ金額ハ概其目的ノミヲ示サシテモ有之候然ル故ニ其年度會計閉鎖十六年度會計閉鎖ハ非前必ス竣工ニ達ケ相當ノ補助金ヲ申請シヘク等ニ候處若シ或ハ此

何年度堤防補助費調表			
區	域	沿川町村名	宇
何川區域	何町村	何々	何百何十何圓
	全町村		
	何村		
何川區域			
合計			何百何十何圓
何川			何百何拾圓

何川

内何百何拾何圓

●乾六十九号(明治十八年三月廿七日)

區町村費及私費(公道へ橋梁ヲ架シ私費ノ負擔ニ屬スル橋梁ノ員數等別紙表式ニヨリ前年

ニ係ル分屆方縣達相成候條毎年一月十五日限届出ヘシ此百和達候事

但明治十七年分ハ來ル四月三十日迄ニ届出スヘシ

(別紙)

凡例

一 本表ハ明治何年十二月卅一日現在ノ調査ニ係ル事項ヲ登錄ス

一 表中所載ノ員數金ハ厘平積_下數ハ坪長幅ハ分ニ止メ石以下ノ數ハ四捨五入ノ法ニ依リ加

除ス

一 表中 印ヲ施スモノハ其事實ナキモノトス

一 表中記スル所ノ市街トハ人口一万以上群居セル地ヲ云フ

甲号 區町村費負擔橋梁員數表

市員	石橋		木橋		土橋		計
	延長	坪數	延長	坪數	延長	坪數	
何十間	何所	何分	何所	何分	何所	何分	
何間何分							
何間何分							
合計							

乙号 私立負擔橋梁員數表

市員	石橋		木橋		土橋		計
	延長	坪數	延長	坪數	延長	坪數	
何十間	何所	何分	何所	何分	何所	何分	
何間何分							
何間何分							
合計							

甲乙丙号ハ全幅員ノ者ナ合セテ一行ニ記入シ延長ハ幅員ニ乘シ平積ヲ得ヘキ様記スヘシ且私費負擔ノ橋梁トハ公道へ橋梁ヲ架シ私費ヲ以テ維持スルモノ(貨取營業ノ橋梁)ヲ云ヒ其一已ノ所有地等へ通スルカ爲メ私費ヲ以テ維持スルモノハ掲ケルノ限リニテラズ幅員大ナルモノヨリ順次記スヘシ

丙号 橋梁員數比較表

市員	石橋		木橋		土橋		計
	延長	坪數	延長	坪數	延長	坪數	
何十間	何所	何分	何所	何分	何所	何分	
何間何分							
何間何分							
合計							

失ノ爲メ其年十二月卅一日迄ニ架替竣成シタルモノナ云フ(落失再築)トハ本年ニ於テ
 落失シタルモノニシテ(即チ前年十二月卅一日現表ニ落橋ノ部ニアリシモノ)本年ニ於
 再築シタルモノナ云フ(落失)トハ本年ニ於テ落失シ其年十二月卅一日迄ニ再築ニ着手セ
 サルモノ若シクハ着手スルモ竣成セサルモノナ云フ(雜)トハ負債ノ變更(仮令ハ私費
 負擔ナ區町村費ノ負擔ニ變更スルノ類)及ヒ架設川名所在町村名橋名ノ改稱等潭ヲ橋
 梁 構造ニ變更ササハルモノナ云フ
 橋費、長幅、橋名、架設川名、所在町村名、負擔、ハ變更シタル現形現稱ヲ掲シヘシ但落失
 ハ落失シタル時ノ現形現稱ヲ掲クルヲ要ス

架設年月日トハ初メテ橋梁ナ架シタル年月日ナ云フニアラス現在ノ橋梁ヲ新架又ハ架
 替セシ年月日ナ云フ

費金モ又之レニ准ス但シ費金ハ地方稅補助及ヒ篤志金區町村費ヨリ成立ツモノト雖モ
 其内譯ヲ記スルヲ要セス其橋梁架設シタル費金ノ總額ヲ記スヘシ

明治十九年一月十五日

耕地一筆内ニ存在セル溜池井溝之類地券内外外ノハ固ヨリ本地ト雖ルヘカテサハルハ從來ノ

慣行ヨリ亦本地ノ爲メニ必要ノ者ニハ有之候處中ニハ該溜池溝ノ類ヲ除キ單ニ本地
 ノミ價入書入ト爲スモノ有之謂ニ相聞(然ルニ若シ本件ノ額負債主亦價ノ義務ヲ怠クル
 等ヨリ民事ノ裁判ヲ仰クニ至ラハ獨リ本地ノミ債主之處有ニ歸シ爲メニ澁澤等ノ利便ヲ
 失シ終ニ本地ヲ維持シ得サルノ不幸ヲ來スヘキ恐レナントセス依テハ自今抽券ノ内外書
 ニアルモノハ必ズ本地ト共ニ書入書入ノ約束ヲ爲サシムルヘキ様戶長ニ於テ篤ク注意シ
 從來ノ慣行ヲ完カラシムル様取計ヲヘシ其前訓前ノ版ニヨリ此百訓ヲ候也

● 第五十六号(明治十九年三月廿六日)

明治十七年六月能地五十六号津町村屬土木費金高帳書式別紙之通り改正之義縣違相成候條
 明治十八年度以降右ニ照準歷年度四月十五日限り可進達此旨相違候事

● 第五百三十五号(明治十九年七月廿日)

區町村費ニ屬スル橋梁ニシテ架替等ノ際小用ニ屬シテ古石賣却代金ハ其關係町村へ
 可下渡義候條該賣却代金ハ豫算ヲ以テ其年度雜收入總案中へ編入シ毎年一月十日限リ前
 年度中ノ處分方可届出此旨相違候事

但戶長數人ノ所轄ニ係ルモノハ本文ノ限リニシラス

●訓令第六号(明治十九年十月四日)

區町村費ノ負擔ニ屬スル道路堤塘及ヒ並木溝渠上使用料金ハ明治十八年度以降其區町村へ下度候條該修繕費ニ充シムヘシ
右訓令ス

●告示第三号(明治十九年十月四日)

區町村費ノ負擔ニ屬スル道路堤塘及ヒ並木溝渠上使用料金徵收期限等ハ客年水縣甲第百五十三号布達同様ト心得ヘシ
右告示ス

●訓令第百十四号(明治十九年十月廿六日)

道路ヲ保存スルニハ路面ニ散在スル砂利ヲ軌道ニ集メ或ハ凹處ニ散布シ土砂結合セシムルヲ必要トス右ハ道路掃除ノ範圍内トシ受持町村ニ負擔セシムヘシ旨訓令相成候ニ付前
達方取計ヘシ
右訓令ス

●訓令第百二号(明治二十年四月十一日)

本年一月石川縣訓令第二十七号地方枕補助土木工事取扱規程第廿條ニ依リ戸長ノ主導ニ屬スル土木工事監督心得別紙ノ通相定ム
(別紙)

土木工事監督心得

第一條 地方税ノ補助ナル土木工事ハ常ニ掛員ヲ派遣シ之ヲ監督セシムヘシ

第二條 度量衡暨ヒ繩繩等ハ一々検査シ之ヲ使用シ柝器ハ殊ニ捺印ヲ施スヘシ

但本文ノ検査ハ工場ニ在テハ常ニ怠ルヘカラス

第三條 工事ニ使用スヘキ諸品ハ目録見ニ照シ一々點查シ荷モ粗悪ナルモノハ之ヲ取換サセ而シテ后検査官派遣方ヲ郡長ニ請ヒ且起工ヨリ竣功ニ至ル迄任樣方法ノ適否ヲ監督シ若シ所定ノ計畫ニ違フモノアレハ目録見帳ニ照シテ仕立換ヲ爲サシメ若シ其指揮ニ隨カハサルモハ其事實ヲ郡長ニ開申シ指揮ヲ受クヘシ

但工事ヲ等閑ニシテ工業期限中竣工ノ見据ナキ場合ニ方リテハ其景狀ヲ詳カニシ豫メ郡長ヘ開申スヘシ

第四條 竣工検査ノ場合ニ方リ所定ノ計畫ニ違フ廉アルモハ監督ノ程度ナルヘキニ付相

當ノ處分ヲ受クヘシ

第五條 砂利土石ヲ量ルルハ必ス工事受負人ヲ立會ハシ毎折品位量測ヲ精査シ每折左ノ書式ニ依リ切符ヲ調整相度置キ檢査ノ際該切符ヲ纏メ申書式ノ届書ニ副ヘ檢査官ヘ申告セシムヘシ

何ノ何番

何坪何合何勺也 印

月 日

用紙中折十六切

第六條 砂利土石ヲ置リ立タルトハ上ヘ毎折番号目標ヲ建テシメ且其量立タル砂石及ヒ

合搭ト認メタル木材等ハ一々簿冊ニ記載シ置キ檢査ノ際該官ヘ申告スヘシ

第七條 左ニ記ス所ノ如キ工事ハ出來ノ后外面ヨリ注目ノ及ハサルヲ以テ施工ノ際特ニ

吟味シ尙モ疎漏ナキ様嚴重監督スヘシ

第一 羽取石積方等ノ事

第二 橋梁抗ノ埋込并土崩仕存等ノ事

第三 道路起返シ及ヒンマ用方等ノ事

第八條 實地小得止事實アリ所定工事ノ計畫ヲ變更セントスルトハ事實ヲ詳記シ目録見帳ヲ添ヘ戸長ヨリ知事ヘ伺出テ認可ヲ經テ后舉行スヘシ

第九條 監督中ハ五日間毎ニ乙号書式ノ如ク工事況狀書ヲ調整シ郡長ヘ開申スヘシ

但工事一廢或ハ一組竣工ヲ見届ケタル上ハ其旨漏ナク況狀書ヘ記入スヘシ

第十條 非常ノ暴風雨 象入非常ナリトスル場合ニ限リ 又ハ洪水等ニ際シ工事受負人ヨリ休業ヲ申立タル時ハ監督員ニ於テ其休業願ヲ承認シタル上事由ヲ詳記シ願書扣取添ヘ即日戸長ヘ

申告スヘシ

但本文承認シタル休業ノ日數ハ工業期限内ノ日數ヲ加ヘス

第十一條 諸品ノ整備シタルトハ行程一日拾里計ノ割合ニ尙凡ソ三日間ノ有餘ヲ積リ郡長ヘ宛テ檢査官派遣ノ事ヲ申請フヘシ

第十二條 工事監督中ハ必ス現場ヲ離ルヘカラス

但當病ニテ本務ニ耐ヘサル時ハ其事由直ニ戸長ヘ開申スヘシ

第十三條 工費ノ内渡リヲ請フトハ出來形帳及ヒ請求書ヲ取立テ意見ヲ付シ戸長ヨリ知

事へ開申スヘシ

土附六

第十四條 工事ノ都合ニ依リ牛馬及ヒ通車止テ必要トスルハ工事受負人ヨリ其旨出願
セシムヘシ

但道敷ニ諸品ヲ配置シ或ハ起工ヲ通知スルカ加キハ監督員ヨリ直ニ所轄警察署又
ハ分署へ照會スヘシ

第十五條 取外シタル古材石等ヲ監督員ニ於テ地係町村物代等へ預ケタルハ證書ヲ取
受ケ纏メテ片長へ指出スヘシ

第十六條 郡役所ヨリ派遣スル監督員ヨリ監督中ノ都合等ヲ質問スルハ速ニ應答シ且
該員ヨリ指揮スルハ之ニ服従スヘシ

甲号書式

御届書

何々往來區域何町ニ至ル修路用砂利或ハ石置立テ幾百坪監督員切符何百葉御届申上候也

何那區何町村何番地

月 日

請負人

何ノ誰印

検査官御中

乙号書式

何月 從何日 何日 至何日 五日間工事現狀書

何日

道路工事ナレハ人夫何百人車何十輛ニテ運搬セシ土砂石何十坪 類別ニ記 受領何町村地内
凡ソ何十間配置トカ或ハ人夫何百人掛リ起返シ土敷トモ何町村地内ニ於テ何百間出来ト
カ日々ノ現狀ヲ記スヘシ橋梁ナレハ何ヶ所橋梁杭埋込何本出来トカ某ヶ所橋梁トカ日々
ノ現狀ヲ記スヘシ

非例ニ倣ヒ詳記スヘシ

右報告候也

何々往來トカ何工事監督員

月 日

官 氏 名 印

郡長宛

土附七

●訓令第三十三号(明治廿一年一月三十一日)

水縣下耕地ノ區畫ハ概テ頗ル狹隘ニシテ牛馬ヲ耕耘ニ使用スルヲ得ズ且畦畔ニ費ス土地
夥多ニシテ天災ノ利益ヲ暴殄スル等其他不便利亦甚カラストス故ニ畦畔ヲ廢除シテ耕
地ノ區畫ヲ大ニシ溝渠作道等ノ改築修成ヲ爲サントスル者ニハ事業ノ實況ニ應シ五ヶ年
以內地價据置年期ヲ附與セラルヘキ等ニ有之旨縣令相成候ニ就テハ右改築タル友別収得
ヲ増殖シ官民ノ利益少カラヌ候ニ付精誠實行スル様部下ヘ勸奨スヘシ様訓令相成候條右
旨趣ニ依リ精誠勸奨スヘシ

●訓令第百二号(明治廿一年四月七日)

天災地變等之件ハ從來水縣庶務課宛ニテ報告シ來リ候處自今氣象測候ニ關スル件ハ金澤
測候所宛ニテ報告候様其筋ヨリ照會越候條此旨相心得ヘシ

●訓令第百十六号(明治廿一年四月廿五日)

官有地拂下ノ義ハ總テ公賣ニ附セラレ候例規ニ有之候處往々拂下ケテ出願候向有之右ハ
固ヨリ允許相成ラサル義ニシテ箇ニ手數ヲ要スルノミナラス畢竟無効ノ請願ニ付其含テ
以テ取扱候様其筋ヨリ通牒越候條此旨相心得ヘシ

但市街一宅地チナノニ足ラサル地所若シハ特ニ因故アツテ無余儀モノハホ文ノ限リ
ニアラヌ

●訓令第百三十五号(明治二十一年五月二十日)

參謀本部測量局ニ於テ測量施業中沿道樹木ハ貼標ヲ附設シ又ハ枝葉ヲ伐採爲致候旨其筋
ヨリ訓令相成候趣今回訓令有之候條此旨豫テ管理内ヘテ達シ置クヘシ

●訓令第百七十二号(明治廿一年八月廿三日)

地籍編纂調査之義ハ客月廿一日限其役場ヘ可届出管ニ付最早測了ノ向ハ勿論迅速スヘシ
若シ今届出ラザル村々有之候ハ、至速取極メ方ニ注意スヘシ

●内第四十号(明治廿一年八月廿三日)

地籍帳并繪圖面ノ義ハ内務省ヘ進達不致事ニ相成候處迄是部宛可差山旨確定相成候旨其
筋ヨリ通達之次第モ有之候條部内各町村ニ其旨前達スヘシ
右 内 達 ス

●内第四十三号(明治廿一年九月四日)

地籍編纂調査ノ義ハ町村全周囲ヲ測量シ字限リ圖ニ至リテハ測量ヲ施サズ地割地押ノ見

取繪圖ヲ以テ適宜切込ニ全村地籍圖ノ完全ナル者ト認メ候向有之紙相問有ハ正離ナラザル調査ニ付他日實檢ニ當リ漸ク出来セシモノモ再查ヲ要スル場合ニ至リテハ官民ノ不便不遑候條部内各町村ニ於テ右様ノ扱ヒ無之様厚ク注意スヘシ

右内達ス

訓令第四十二号(明治廿二年三月十三日)

地籍編製ノ義ハ客年七月限リ調査整頓スヘシ處今ニ調了ノ場合ニ至ラス右様緩慢ニ打過候テハ不都合ノミナラス右取纏メノ爲メ水月下旬ヨリ本縣主務官出張ノ旨其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條是非水月中ニ悉皆整頓候様特ニ示達スヘシ

内第二十七号(明治廿二年四月十七日)

地籍編製調査書類進達ノ節初發着手ノ際測量人ニ於テ實測セシ野取帳ハ調査ニ際シ要用ニ候條其所轄各村分役場迄取立テ保管シ他該當吏員ノ求メニ供スル様備置シヘシ

右内達ス

乾九十三号(明治十八年四月廿四日)

暴風雨洪水等非常ノ事アル時及ヒ新工ニ工業ヲ起シタル事件報告方ノ義ニ付客年十二月

本縣地理課長ヨリ各戸長ニ照會相成居候處報告漏獲ノ向往々有之指支不遑候ニ付期限ヲ誤ラス報告方ノ義可及恐示旨其筋ヨリ申來候條將來期限ヲ誤ラス速ニ報告候様深ク注意可致此旨相達候事

○學務ノ部目次

● 乾第八拾七号	明治十九年	一丁
● 乾第四拾二号	全	二丁
● 乾第三拾号	全	全
● 乾第二拾九号	全	三丁
● 乾第七拾八号	明治拾八年	全
● 乾第六拾九号	全	四丁
● 乾第六百八拾二号	全	全
● 乾第六百九拾八号	全	全
● 乾第六百拾五号	全	五丁
● 内達	明治拾九年一月八日	七丁
● 告示第四拾一號	明治拾九年	九丁
● 訓令第三百四十四號	全	拾二丁
● 訓令第二拾號	明治二拾年	二拾丁
● 訓令第三拾號	全	全
● 訓令第八拾七號	全	二拾五丁

訓令第九十八號	明治二十年	二十六丁
訓令第一百十二號	全	全
訓令第一百二十一號	全	二十九丁
訓令第一百五十六號	全	三十丁
訓令第一百九十二號	全	三十一丁
訓令第一百九十三號	全	三十四丁
訓令第二百二十一號	全	三十七丁
訓令第二百廿八號	全	三十九丁
訓令第二百三十一號	全	四十一丁
訓令第二百三十三號	全	全
訓令第二百五十二號	全	四十三丁
訓令第二百六十三號	全	全
訓令第二百五十五號	明治廿一年	四十四丁
訓令第七十四號	全	全
訓令第一百十八號	全	四十五丁
訓令第一百三十四號	全	四十六丁
訓令第三百三十二號	全	四十七丁

訓令第三百三十三號	全	四十八丁
訓令第四百四十六號	全	全
訓令第四百七十八號	全	全
訓令第四百九十二號	全	四十九丁
訓令第二百七十七號	全	五十丁
訓令第二百七十二號	全	全
內第二十八號	全	五十一丁
內第二十九號	全	五十四丁
內第三十號	全	五十五丁
內第三十一號	全	全
內第五十號	全	五十六丁
訓令第七十七號	明治廿二年	五十七丁
內第九號	全	五十八丁
告示第二十一號	全	六十九丁
內第十六號	全	全
訓令第三十四號	全	全
訓令第六十一號	全	七十丁

●内第廿八号
 ●乾第九十一号
 ●訓令第八号

明治廿二年
 明治十八年
 明治廿二年

七十丁
 全
 七十二丁

郡規類集

學務之部

乾第八十七号

本郡小學校授業生旅費等支給規則本年度聯合町村通常會ノ評決ヲ經テ別紙ノ通り相定候條此旨相達候事

明治十九年五月十三日

(別紙)

明治十九年度能美郡町村立小學校授業生等旅費支給規則

第一條 旅費及日當ノ支給方法ハ渾テ明治十九年一月本縣甲第三号町村立小學校職員旅費規則ニ據ル

第二條 旅費及日當ハ左表ノ通り支給スルモノトス

但訓導又ハ准訓導資格ヲ有シテ採用方申請中或ハ未タ申請セサル者ノ旅費及日當ハ渾テ本條ニ準ス

●内務省公署
 ●明治廿八年
 ●初第九十二号
 ●明治廿九年
 ●訓令第八号
 ●明治廿八年
 ●明治廿九年
 ●全
 ●全
 ●全

郡規類集

學務之部

乾第八十七号

本郡小學校授業生旅費等支給規則本年度聯合町村通常會ノ評決ヲ經テ別紙ノ通り相定候條此旨相達候事

明治十九年五月十三日

(別紙)

明治十九年度能美郡町村立小學校授業生等旅費支給規則

第一條 旅費及日當ノ支給方法ハ渾テ明治十九年一月本縣甲第三号町村立小學校職員旅費規則ニ據ル

第二條 旅費及日當ハ左表ノ通り支給スルモノトス

但訓導又ハ准訓導資格ヲ有シテ採用方申請中或ハ未タ申請セサル者ノ旅費及日當ハ渾テ本條ニ準ス

職名	並旅行	急行旅費	日當
授業者	行程三里以上一里ニ	行程三里以上一里ニ付	金二十錢
助業手	付金二錢	金三錢	

第三條 巡回授業ニ係ルモノ、旅費額ハ本則第二條ノ限ニアラス

乾第四十二号 明治十九年三月一日

本縣學務課ニ於テ每隔月刊行相成候學事報告ハ從來教育者執務上參考ノ爲向々ハ幾部宛配付相成候處尙未タ普及ノ場合ニ至ラス右ハ教育ニ於テハ實用不少ニ付學校長ハ教育(殊ニ校長首座教員)等ニ於テ精々自費ヲ以テ購求候様其節照會ノ趣モ有之候條可成各自ニ於テ購讀可致此旨相達候事

但シ本文ノ報告一部代價大凡金十錢(運送費共)ニ有之候得共詳細ハ其都度當廳庶務科學務掛リヨリ可及通報尙購讀望ノ者ハ毎年二、四、六、八、十、十二月ノ各丁月(今回ニ限リ)限リ入用ノ部數當廳庶務科學務掛リマテ可申出候事

乾第三十号 明治十九年二月十三日

本郡留學生身元保証人ノ義ハ自今地租額五圓以上ヲ納ムル者二名ヲ要シ候條現在留學生并將來留學生志願ノ者ハ無誤通達スヘシ此旨相達候事
但レ本人在學中若クハ卒業後奉職年限中保証人地租額五圓未滿ニ減少候節ハ代員取極メ直ニ届出候様取計ヘシ

乾第二十九号 明治十九年二月十三日

從來小學校ノ圖書ハ渾テ西洋ノ書法ニ則リ鉛筆相用致授致來候得共成業ノ後各營業ニ從事候ニハ西洋ノ書法ニ據リ毛筆ヲ用キテ練習爲致候方其益不尠候ニ付各小學校ニ於テ漸次毛筆可相用旨其筋ヨリ申越候條可成速ニ改良候様致スヘシ此旨相達候事

乾七十八号 明治十八年四月十日

學區改正校數指并學校等指定達ニ付實施手續本年二月廿日付ヲ以テ内達事項中從來ノ數學區ヲ合併一學區トナシタルモノハ其財產ハ總テ新學區ヘ引繼ヘキ旨達置候處右財產ヲ其舊學區ヘ引繼難キ事情有之モノハ舊學區ニ於テ町村會開設シ處分評決其筋經

伺ノ上施行可致旨内達ノ次第モ有之候條此旨相達候事

乾百六十九號

明治十八年八月廿二日

今般廣九十六號ヲ以テ學資蓄積金保管準則相定メ候ニ就テハ從來數町村若シクハ一町村ニ於テ蓄積セシ金額保管才并ニ將來蓄積ノ方法等該則ニ準據規則ヲ編成シ聯合町村會若シクハ町村會ノ決議ニ依リ當廳へ伺出此旨相達候事

乾百八十二號

明治十八年九月十日

今般丙第百九號ヲ以テ學事ニ關スル事件取扱方被達候ニ付テハ從來當廳ヨリ學務委員へ達置候件ハ渾テ日長ニ於テ取扱儀ト心得ヘシ此旨相達候事

乾百九十八號

明治十八年九月三十日

從來本縣縣立學校生徒募集方公報ニテ告テ又ハ加越能新聞等ニ廣告相成候得共一般人民ニ於テ承知セサル爲ニモ候哉入學者志願人至テ難少ニ付向後縣立諸學校生徒募集方告テ

相成候節ハ其都度戸長役場掲示場ニ掲示シ各自承知候條可取テ其筋照會ノ次第モ有之候條此旨相達候事

乾二百十五號

明治十八年十月廿七日

本郡各町村學事世話掛事務取扱心得別紙ノ通り相定候條該掛へ無洩通達スヘシ此旨相達候事

(別紙)

能美郡各町村學事世話係事務取扱心得

第一條 學事世話掛ハ戸長ノ指揮ニ從ヒ學事ノ隆盛ヲ圖ルモノトス

第二條 學事世話掛ハ左ノ各項ヲ以テ事務トス

第一項 學齡兒童ノ就學ヲ勸誘スルコト

第二項 既ニ就學セシ兒童ト雖モ一ヶ月以上學校へ出席セザリシ者ヲ調査シ之ヲ督促スルコト

第三項 少ナクモ毎月一回以上必ス其町村兒童ノ通學スル學校へ出勤シ生徒ノ出席サ

調査シ及ヒ受業ノ視察スル事

第四項 學校試業ノ際ハ必ス出校シ其町村生徒ノ學業成績ヲ視察スル事

第五項 試業ノ成績又ハ生徒ノ受業ヲ視察セシ時兒童性質品行及ヒ學力ノ消長等ニ於テ其父兄ノ注意ヲ要スヘキ事アラハ受持教員ノ承認ヲ經父兄ニ就キ意見ヲ申出ル事

第六項 試業ノ際ハ勿論其他ト雖モ父兄ノ參觀ヲ促ス事

第七項 教員寄宿所等ニ配慮スルコト

第三條 學事世話掛ハ左ノ各項ニ注意シ其意見ヲ戸長ヘ陳述スヘシ

第一項 學齡兒童ノ不就學ニ關スル事

第二項 欠席生徒ニ關スルコト

第三項 學校諸般ノ備設ニ關スル事

第四項 學校建築并ニ修繕ニ關スルコト

第五項 學校衛生上ニ關スル事

第六項 町村人民向學心ノ厚薄ニ關スル事

第七項 通學道路ノ修繕及ヒ雪割等渾テ兒童通學ノ便否ニ關スル事

- 第八項 學費徴収上ニ關スル事
- 第四條 學事世話掛ハ毎月一回適宜期日ヲ定メ其學校擔當戸長役場ヘ會合シ諸般協議ヲ遂ケ其方向ヲ一ニスヘシ
- 第五條 學事世話掛委嘱書ヲ受ケタルトハ直ニ請書ヲ製シ左ノ雛形ノ名刺ニ葉ヲ添ヘ戸長ヘ差出スヘシ

年月日被嘱
 能美郡何町村
 何町村何番地
 士族平民
 氏名
 年月日印

- 第六條 學事世話係ハ學校ヘ出勤ノ都度其出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第七條 學事世話掛疾病事故アリテ學校若シクハ定期ノ會合ニ出頭スル能ハサルトハ必ス戸長役場ヘ通報スヘシ

明治十九年一月八日

町村立小學校職員任免見込具申ノ際可相添各自履歷書ノ義ハ自今別記ノ通り相認サセ候

様致スヘシ此旨内達候也

(別紙)

履歴書

何郡區何町村何番地 (寄留者ハ其寄留所ヲ添記スヘシ)

華士族 平民

氏名

生年月

一 免許狀及卒業證書

教員免許狀及師範學校卒業證書等ハ其謄本ヲ附スヘシ

一 學業

修業ノ場所教師年限學科目ヲ記スヘシ

一 職務

就職ノ場所職名俸給年限ヲ記スヘシ

一 賞罰

右之通相違無之候也

月 日

右

氏名 印

告示第四十一號

明治十九年十一月二十二日

石川縣令第五十七號小學校授業生免許規則第七條ニ基キ小學校授業生學力檢定試驗細則別紙ノ通相定ム右告示ス

(別紙)

小學校授業生學力檢定試驗細則

第一條 小學校授業生學力檢定試驗ハ郡長ニ於テ特ニ試驗委員ヲ命シ施行セシムルモノトス

第二條 小學校授業生學力檢定試驗場ハ本郡小松町公會堂トス

但時宜ニヨリ變更スルコアルヘシ

第三條 小學校授業生學力檢定試驗ハ毎年三月トス志願ノ者ハ九月廿日限り左ノ書式ニ

隨ヒ檢定願書ヲ郡役所ヘ差出スヘシ

但時宜ニヨリ施行期月ヲ變更スルコトアルヘシ

小學校授業生學力檢定試験願

某 儀

御郡内小學校授業生志願ニ付學力檢定試験被成下度別紙履歷書相添ヘ此段奉願候也

何郡區何町村何番地(同居)寄留人ハ別ニ寄留所ヲ記スヘシ

族籍戸主又ハ何男女弟妹トカ

月 日

氏 名 印

郡 長 宛

右ハ明治十九年文部省令第十二號第十二條ノ一項若シクハ數項ニ觸ル、廉無之且檢定期限ニ至リ十七年以上ノ者ニ相違無之候依テ致與書候也

何町村何ヶ町村戸長

氏 名 印

履歷雜形

何町村何番地(同居)寄留人ハ別ニ寄留所ヲ記スヘシ

族籍戸主又ハ何男女弟妹トカ

氏 名
年月日生
何年何ヶ月

一 免許狀及ヒ卒業證書

授業生免許狀及ヒ小學校各等期卒業證書等ノ種別ヲ記スヘシ

一 學業

修業ノ場所致即年限學科目ヲ記スヘシ

一 職務

就職所職名俸給年限ヲ記スヘシ

一 賞罰

賞罰事由并年月日ヲ記スヘシ

右ノ通候也

月 日

氏 名 印

訓令第三百四十四號

明治十九年十二月五日

本年三月三號達ヲ廢シ小學校經費取扱手續更ニ別紙ノ通相定ム
右訓令ス

(別紙)

小學校經費取扱手續

第一條 小學校ノ經費ハ年度ノ始メ一ヶ月凡積ヲ以テ其學校擔當戸長ヘ下付スヘシ

第二條 小學校長若シクハ首座教員ハ左記ノ書式ニ據リ毎月校費請求書ヲ製シ其月末日
限擔當戸長ヘ差出スヘシ

但シ祭祝日或ハ日曜日ニ當ルハ前日ニ繰上クヘシ

第三條 擔當戸長ハ校長若クハ首座教員ヨリ差出ス所ノ請求書ヲ調査シ違キニ下付シタ
ル凡積經費中ヨリ其金額ヲ渡シ領収書ヲ取立テ保存シ請求書ハ捺印ノ上翌月五日限り
郡役所ヘ差出スヘシ

第四條 郡役所ニ於テハ校長若シクハ首座教員ヨリ戸長ヲ經テ差出ス所ノ請求書ヲ調査

シ其月廿五日限り其金額ヲ擔當戸長ヘ下付スヘシ

第五條 校長若シクハ首座教員ハ年度ノ始メ出納簿等ヲ調査シ實費任拂ノ上ハ各自領収
証ヲ取立テ主任者并ニ校長若シクハ首座教員捺印上保存スヘシ

第六條 書籍器械器具ノ修繕校舍ノ營繕費及ヒ炭油費等ニ於テ金額一圓未満ノ任拂ヲ要
スルハ校長若シクハ首座教員戸長協議ヲ遂ケ施行スヘシ

第七條 第六條ノ諸費ニ於テ金額一圓以上ヲ要スルハ校長若シクハ首座教員戸長協議
ヲ遂ケ經伺ノ上處置スヘシ

第八條 書籍器械器具ノ購求ヲ要スルハ校長若シクハ首座教員戸長協議ヲ遂ケ金額ノ
多寡ニ關セス渾テ經伺ノ上處置スヘシ

但郡役所ニ於テ購求下付スルコトアルヘシ

第九條 小仕給料借地借家料ハ校長若シクハ首座教員戸長協議ヲ遂ケ其金額ヲ假定シ經
伺ノ上處置スヘシ

但變更スルハ其都度伺出ツヘシ

何小學校費何月分請求書

一金何程

○局長檢印

内譯

金何程

校長給料

内

金何程

校長兼何等訓導何某月俸

内

金何程

訓導給料

内

金何程

何等訓導何某月俸

内

金何程

授業生給料

内

金何程

授業生何某月俸

新任聘任免官等ノ向在ノ通屬等ノ

新 任

何月何日(就職)就職日割何日分

但月俸(月給)金何程(額)全

他ノ聘任

何月何日(新任學校)何小學校へ聘任日割何日分

但書全上

他ノ聘任

何月何日(新任學校)何小學校ヨリ聘任日割何日分

但書全上

同増減俸

何月何日(同上)何小學校ヨリ増(減)俸(給)聘任日割何日分

但書全上

増減俸

從來月俸(月給)金何程ノ處何月何日(發令)増(減)俸(給)日割計算

但自今月俸(月給)金何程(額)全

免 官

何月何日(命令到達)依願免官日割何日分

但月俸(月給)金何程(額)全

願濟休暇

何月何日(初)ヨリ何月何日(終)マテ日數何日間(願濟休暇)忌引

忌引病氣

(病氣欠勤)日割計算

但書同上

又ハ(前月ヨリ
欠勤ノ者)

何月何日(初)ヨリ何月何日(終)マテ日數何日間...日割計算
但書同上

月俸支給細則第六條及第七條ニ據リ月俸(月給)ヲ支給セラルル向ハ左ノ通り記載スルシ

何等訓導何某トカ

何月何日(初)ヨリ何月何日(終)マテ何ニノ處欠勤日數五十日(九十日)以上

ニ付月俸(月給)請求セス

同上ノ向ニシテ再々出校セシモノハ左ノ通り記載スルシ

何月何日(初)ヨリ何月何日(終)マテ日數何日間何々ノ處何月何日ヨリ出校日

割何日分

但月俸(月給)金何程(全額)

金何程

旅費

内

金何程

何等訓導何某旅費トカ

左ノ通り記載スルシ但翌月ニ跨ルモノ翌月分トシ翌年度ニ跨ルモノハ年度ヲ以テ區別請
求スルシ

何月何日何等訓導拜命ニ付同何日何處出發同何日何所着何處ヨリ何處マテ片道
里程何里何十町赴任旅費

又ハ

何々ノ爲メ何月何日何處出發同何日何處着同何日マテ滞在同何日同處出發何月
何日歸着片道里程何里何十町往復里程何里(片道里程ノ町數)滞在何日
(ナ合算スルシ)

一金何程

小仕給料

内

金何程

小仕何某月給

新命解雇及ヒ増減給ノ向ハ滞テ放棄ニ準シ記載スルシ

金何程

日雇小仕何某日給

但日數何日間日給金何程

金何程

借地借家費

內

金何程

敷地或八休操場借上料

金何程

建物或分敷場借上料

金何程

書籍費

內

金何程

何書何部何冊代

金何程

教授器械費

內

金何程

敷場用卓何脚代

金何程

學校器具費

內

金何程

火鉢何個代

內

金何程

何々修繕料

金何程

炭油費

內

金何程

炭何俵代

金何程

火鉢何個代

金何程

何々修繕料

金何程

炭油費

金何程

炭何俵代

金何程

營繕費

金何程

何板何枚或八何坪代

金何程

諸雜費

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

金何程

白黒何箱代

源子經同ノ上騰求セシ物品ハ之ノ但書ヲ附スヘシ

但何月何日許可ノ分
右請求候也

月日

郡長宛

(何小學校首坐教員)

何小學校長(何等訓導)何某印

訓令第二十號

明治廿年一月廿日

今般告前第二十一號ヲ以テ小學校授業料金額相定メ候コ付テハ每校ニ於テ其徴収金額ヲ減セサル限リハ生徒各自ノ分限ニ應シ尋常小學校ハ金二十錢ヨリ金五錢迄ニ増減シ高等小學校ハ金五十錢ヨリ金十錢マテニ増減スルヲ得

訓令第三十號

明治二十年一月廿七日

學校生徒貯金細則別記ノ通相定ム

(別紙)

能美郡町村小學校生徒貯金細則

- 第一條 町村立小學校ニ於テ勤儉ノ徳ヲ養フカ爲メ生徒ノ志望ニ任セ其勞動若シクハ父兄尊親等ヨリ得タル金錢ノ全額又ハ幾分ヲ貯蓄セシム
- 第二條 生徒ノ貯金ハ校長之ヲ取扱フヘシ
但校長ナキハ學校ハ首坐教員ニ於テ取扱フヘシ以下之ニ倣ヘ
- 第三條 生徒ニ於テ貯金ノ志望アル者ハ校長ヘ申出スヘシ
- 第四條 校長ニ於テハ貯金志望ノ生徒ヘ第一號書式ノ生徒貯金通帳ヲ渡スヘシ
- 第五條 生徒ハ貯金通帳ニ自己ノ貯蓄セントスル金額ヲ添ヘ校長ヘ指出スヘシ
- 第六條 校長ニ於テ生徒ヨリ納ムルトコロノ貯金ヲ領収シ其貯金通帳ニ領収ノ印ヲ捺シ生徒ヘ返付スヘシ
- 第七條 生徒一人ノ貯金十錢ニ滿チサル間ハ校長ハ戶長ト協議ノ上之ヲ保管スヘシ
- 第八條 校長ハ生徒一人ノ貯金十錢以上ニ及キハ直ニ郵便局ヘ預ケ入ノ手續ヲナスベシ

第九條 驛遞局貯金通帳ハ校長ニ於テ他職員ト合封ノ上之ヲ保管スヘシ

但他職員不在ノ學校ハ校長ニ於テ嚴重ニ保管スヘシ

第十條 校長ハ第二号書式ノ生徒貯金根帳ヲ製シ出納ヲ詳記スヘシ

但預入ノ都度生徒貯金通帳ト割印スヘシ

第十一條 生徒貯金ハ左ノ一項若シクハ數項ニ該當スル者ニアラザレハ拂出スヘカラス

第一項 卒業退學ノ者

第二項 他府縣他郡區へ轉學又ハ移住スルモノ

第三項 死亡又ハ半途退學ノ者

第四項 父母災害ニ罹リシ者

第十二條 郡内ニ於テ轉校スル者アルハ甲校長ヨリ乙校長へ其生徒ノ貯金預入高ヲ通知シ驛遞局貯金通帳及ヒ十錢未滿ノ金ヲ送附シ領収書ヲ受置クヘシ

第十三條 生徒貯金ノ拂出ヲ請求スル者ハ第三号書式ニ據リ請求書ヲ校長へ差出スヘシ

第十四條 生徒貯金ノ拂出ヲ請求スル者アルハ校長ニ於テ其實情ヲ調査シ第十一條ノ

一項若ハ數項ニ該當スル者ニハ驛遞局貯金通帳及ヒ十錢未滿ノ金ヲ其生徒へ還付スヘシ

第十五條 貯金ノ拂出ヲ請求シ其金ヲ受取タルハ其生徒ニ於テ第四号書式ノ領収書ヲ製シ校長へ差出スヘシ

第十六條 校長ハ毎年一月二十日七月十日限り第五号書式ニヨリ前半年中ノ生徒貯金調査表ヲ製シ郡長へ届出ツヘシ

第一号書式

表

裏

明治何年何月以降	生徒貯金通帳	第何号
	能美郡小學校生徒	何 某
	何郡區何町村何番地	何 某
	父兄又ハ	何 某
	后見人	何 某
	記	何 某
何年何月何日取扱者		何 某
一金何程		何 某
		印

第二號書式

第何號

生徒

氏名

預入金額	預入年月日	領収割印	取扱者氏名
金何程	何年何月何日	一校印	何某印

第三號書式

貯金請求書

一金何程

貯金

右今般何々ノ事故ニヨリ御拂出被下度候也

生徒

月日

氏名

名

何郡區何町村何番地

右父兄又ハ
後見人

氏名

印

校長宛

第四號書式

領収書

一金何程

貯金

右今般御拂出被下正ニ受取申候也

生徒

月日

氏名

名

何町村何番地

右父兄又ハ
后見人

氏名印

校長宛

第五號書式

明治何年能美郡町村立小學校生徒貯金調査表

生徒氏名	預入金額	増殖利子	小計
------	------	------	----

訓令第八十七號

明治廿年三月三十日

來ル四月一日ヨリ小學校等科改定實施ニ付部内學齡兒童ノ內高等科若クハ尋常科小學校ニ入學スヘキ者ハ當初出校ノ際渾テ本年三月石川縣訓令第五十二號小學校々則第一條ニヨリ名簿等携定セシムヘシ

但簡易科小學校ニ入學スルモノハ入學ノ后漸次差出サスヘシ

訓令第九十八號

明治二十年四月六日

本年三月石川縣訓令第七十九號小學校處務規程第十一條ニ於テ小學校長ヨリ知事及郡區長ニ進達スヘキ伺届等ハ戶長役場ヲ經由スヘキノ明文アリト雖モ今般其筋ヨリ申越ノ趣モ有之爾今該書類ハ組合主校所在地戶長役場ヲ經由進達シ毎校重要ノ事件ハ其都度各小學校所在地戶長組合主校所在地地戶長ヲ除クハ通報スヘシ但高等科小學校ヨリハ直接進達スヘク且當衝所在地及ヒ近傍各小學校ヨリハ直接進達スルモ妨ナシ

訓令第一百十二號

明治廿年四月廿五日

小學簡易科ハ貧困ノ兒童ヲシテ之ヲ修メシメ以テ普通教育ヲ擴張スヘキ主意ニ有之候處其學科ノ簡易ナルヲ輕視シ就學スル者極メテ少ナキヤニ聞ヘ及候右ハ實施以來日尙淺キヲ以テ其趣旨甚タ貫徹セサルニ因ルヘシト雖モ亦認見誤解ノ者少ナカラサルヘシ依リテ先般文部大臣九洲巡回中郡區長ヘ説示相成候要項中簡易科制定ノ趣旨別紙節錄候條深ク其意ヲ體シ誤謬ノ見解無之様懇篤説諭シ就學猶豫免許候者ノ外盡ク就學セシメ簡易科教授ノ實益ヲ辨知スル様盡力致スヘシ

(別紙)

文部大臣九洲巡回中郡區長ヘ説示ノ趣旨節錄

簡易科事

貧困ニノ授業料ヲ支辨スルノ資力ナキ父兄數多アルニ依リ爲メニ簡易科ノ製ヲ設ケ町村費ヲ以テ其費用ヲ支辨スルコトニ定メタリ是則町村ヲシテ其國家ニ對スル務ヲナサシムルモノナリ他ノ學校ニ於テハ省令ヲ以テ學科程度等ヲモ示シタレモ簡易科ニ至テハ授業時間ヲ三時以内ト定メ學科ハ算術ヲ主トスル等唯其要旨ヲ示シ其餘ノ事ハ知事ノ權内ニ委任セリ願ニ簡易科ノ學科タル或ハ簡ニ過クルノ觀ナキニテサレモ國民生計ノ度合今日

形勢ニテハ強テ完全ナル教育ヲ望ムヘカラス故ニ、機關ノ權ヲ知事ニ與ヘテ土地ノ情況ニ適合セシムル人或ハ其學科ノ簡易ナルヲ見テ之ヲ輕視スル者モ有ルヘシト雖モ是ハ大ナル謬見ナリ元來國ハ人民ノ集合体ニ外ナラサルニ今全國兒童ノ多數(凡ソ三分ノ二)ハ簡易科ニ就カサルヲ得サルヘキニヨリ、今后ノ日本帝國ハ簡易科ノ教育ヲ受クル人ヨリ成立ツト謂フモ不可ナキモノニシテ此簡易科ハ國家全体ノ盛衰ニ關スル緊要物ナリ決シテ輕忽ニ視做スヘカラス又他日教育ニ強迫法ヲ行フノ時期來ルコアルヘシ然ルモハ專ラ此種類ノ學校ニ關スヘキモノナルニヨリ今ヨリ簡易科ノ教育ニ深ク注意シテ其利益ノ實ヲ知ラシムル様ニ効驗ヲ現ハスヲ要ス

簡易科ニ於テ算術ヲ主トシタル理由ハ算數ニ通スルモハ事物ヲ比較シ事ノ利害ヲ辨別スルノ能カヲ養成シ處世上最モ緊要ノ者ナレハナリ夫レ漠然トシテ事物ノ利害ヲ辨知セサル如キハ常ニ算數ノ教育ナキ者ニ最モ多キハ諸君モ知ラル、所ナラン讀ミ書キノ如キハ若シ之ヲ簡易科ニ於テ學ヒ得サルトスルモ算數ノ事ニ通スルモハ后自ラ其不便ヲ悟リ隨分自修スルノ道モアルヘシ算術ニ至テハ之ニ反シ幼年ノ時ニ學ハサレハ之ニ習熟スルコト極メテ難シ故ニ讀ミ書キノコトハ第二トシテ專ラ力ヲ算術ニ用キ殊ニ暗算ニ習熟セシム可ナリ

訓令第百二十一號 明治廿年四月廿七日

能美郡小學校生徒運動會規則別紙ノ通相定ム

(別紙)

能美郡小學校生徒運動會規則

- 第一條 本會ハ高等小學各期及ヒ尋常小學第三年期以上ノ男生徒ヲ以テ組織トス
- 第二條 本會毎年凡ソ兩度開設シ其場所及ヒ期日ハ郡長之ヲ定ム
- 第三條 各小學校一組合乃至二三組合ヲ合併シテ一中ト四トシ其旨郡長ヘ届出ツヘシ但高等小學校ハ他ノ組合ニ關セス特ニ一中四トス
- 第四條 本會ニ於テ演習スヘキ學科等ハ中間毎ニ協議ノ上取極メ豫メ郡長ヘ届出ツヘシ
- 第五條 本會ヲ整理スル爲メ開會毎ニ會長一人副會長一人司令長若干人司令若千人ヲ置ク
- 第六條 會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理ス
- 第七條 副會長ハ會長ヲ補翼シ其不在ノ時ハ代理ヲ爲ス

第八條 司令長ハ會長ノ命ヲ受ケニ中團ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌ル

第九條 司令ハ司令長ノ命ヲ受ケニ中團ノ事務ヲ分掌ス

第十條 正副會長ハ本郡學務擔任書記又戸長司令長ハ組合主校長ノ内ヨリ郡長之ヲ命シ
司令ハ小學校職員ノ内ヨリ司令長之ヲ命ス

第十一條 本會費ハ海テ有志者ノ寄附金ヲ以テ支辨スヘシ

第十二條 前各條ニ定ムル所ノ外臨時ニ出ツル事件ハ主務者ニ於テ其都度會長ノ指揮ヲ
受ケ處理スヘシ

訓令第五百五十六號 明治二十年五月廿七日

町村立小學校ニ於テ兵式依據教授ノ爲メ任用候補備役及ヒ後備軍艦員ノ者ニ其教授時間
中陸軍製服用爲致度旨本縣知事ヨリ陸軍大臣ヘ伺出相成候處右ハ士官以上ニ在テハ若
用不苦候得共下士ニ在リテハ官給ノ製服用戰時ハ勿論平常召集ニ際シ若用可爲致モノニ
シテ日常若用爲致候テハ保存上ニモ關係致シ候義ニ付若用難爲致候乍併仮令陸軍正規ノ
服ニ有之候モ下士私製ノ分ハ若用不苦旨陸軍省總務局ヨリ回答有之候趣其筋ヨリ申來候

條此旨心得ヘシ

訓令第五百九十二號 明治廿年六月二十八日

小學校生徒勉學勸奨手續別紙ノ通り相定ム

(別紙)

小學校生徒勉學勸奨手續

緒言

幼年生徒教養上ニ於テ最モ緊要ナルハ家庭ト學校トノ協同ヨリ大ナルハナシ然ルニ從來
ノ風タル家庭ト學校トハ自然別立ノ形ヲナシ父母後見人ハ學校ノ模範ニ暗ク學校職員ハ
家庭ノ事情ニ疎キカ如キ傾向アリ爲メニ在籍生徒ノ欠席ヲ多カラシメ生徒教養ノ旨趣ニ
背馳スルコト少ナラス是幼童教養上一大欠典ト云フヘシ今ヤ學事諸般改革ニ際シ専ラ家
庭ト學校トノ聯絡ヲ通シ圓滑親密以テ生徒教養ノ良果ヲ謀ルニ勉ムヘシ
第一條 小學校職員ハ在勤學校通學町村學事世話掛リ及ヒ父母後見人等ト親シク交際シ
在籍生徒ノ勉學ヲ勸誘スヘシ

第二條 小學校職員ハ時々生徒ノ父母後見人等ヲ學校ニ招集シテ教授ノ狀況ヲ勸察セシメ其意見ヲ聞キテ教授ノ參考トシテ或ハ職員ヲ其居宅ヲ訪ヒ生徒在校中ノ模様ヲ告ケ家庭教育ノ資料ニ供スヘシ

第三條 前條父母後見人等ニ對シ指示スヘキ要項左ノ如シ

一 生徒在校中勉學ノ實踐

一 家庭ニ於テ復習スヘキ學科及ヒ遊戯ノ種類

一 生徒衛生ニ關スル諸件

第四條 職員各家ニ付視察スヘキ要項左ノ如シ

一 生徒家族ノ關係及家内ノ慣習

一 家内ノ營業貧富ノ度

一 衛生ニ關スル諸件

第五條 在籍生徒事故ナク欠席數日ニ及ヒ出校セサルモノアルハ左ノ手續ヲ履行シ其就學ヲ勸誘スヘシ

一 高等小學生徒欠席七日ニ及フトハ校長ヨリ生徒居住地戸長若シクハ學事世話掛ニ通

告シ其勸誘ヲ依頼スヘシ

但シ學校所在地ノ生徒ニ限リ職員ヲ毎戸ニ出張セシムルト父母后見人ヲ學校ニ招集スルトハ便宜タルヘシ

一 尋常小學生徒欠席三週日ニ及フトキハ父母后見人ヲ學校ニ招集シ若シクハ其居宅ニ付キ懇篤勸諭スヘシ

一 簡易小學生徒欠席三週日ニ及フトキハ前項ノ如ク取扱フヘシ

第六條 職員各戸ニ臨シ家内ノ慣習等ニ於テ生徒放蕩上弊害アリト認ムルトハ父母后見人ヲ懇諭シ改良ノ道ヲ計ルヘシ

第七條 職員ハ戸長ヲ補翼シ學齡兒童ノ就學ヲ勸誘スヘシ

第八條 學齡兒童中家資ノ貧富ニ應シ高等尋常若シクハ簡易ノ各科ニ適當スル模範篤就學ヲ示諭シ兒童ノ將來ヲ誤ラサル様深ク注意スヘシ

但女兒ノ就學ニ關シテハ殊ニ傾注スヘシ

第九條 小學簡易科生徒ノ就學勸誘ハ資産ノ多キモノヨリ着手シ延テ貧民ノ兒童ニ及ヒ所謂邑ニ不學ノ戸ナク家ニ不學ノ人ナカシムル様厚ク注意スヘシ

第十條 本手續ノ順項ニヨリ實行シタル成績并ニ實況ヲ詳記シ郡長ヘ具申スヘシ

但實行上ニ付キ各町村父母后見人等職員ノ元論ニ應セサルモノアルハ充分説諭ヲ

ヘ尙收メサルニ於テハ其實況ヲ詳記シ且長ニ通告シテ郡長ヘ具申スヘシ加

訓令第九十三號

明治廿年六月廿八日

通學町村ニ於テ協議ノ上小學校舎建築ノ向ヘ自今竣功ノ當日ヨリ三日以内ニ校舎ノ正面
并ニ平面百分ノ一縮圖(校舎ノ縮圖ハ方位及ヒ其建坪并ニ内)及別紙書式ニ遵據シ出來形
明細表ヲ調製各々通宛シ且該工事ニ關シ盡力セシモノノ氏名取添ヘ開申スヘシ
但本年一月以後建築ノ分モ本文ニ準シ來ル七月五日限り開申スヘシ

(別紙)

能美郡何科小學校舎建築出來形明細書

一學校地名

何郡區何町村何番地

一敷地反別

- 敷地種類反別何反何步
- 一校舎坪數
- 何十何坪東西何間南北何間
- 一建坪地形
- 平地ヨリ高キコ何尺
- 一建築種別
- 木造或ハ石造ニシテ平屋又ハ二階造トカ
- 一屋根并ニ周囲及ヒ窓
- 屋根ハ瓦或ハ草葺ニシテ周囲ノ内外ハ板或壁窓ハ硝子或紙張
- 一校舎内部ノ構造
- 地形ヨリ牀板マテ何程天井ノ高サ何程階梯何箇其形何々横巾何程堅巾何程各段ノ高サ
何程便所何ヶ所
- 一校舎方位
- 東西若クハ南北ニ面シ北方ハ樹木又ハ山嶽

一 學齡人員
 内男何人
 女何人
 一 就學生徒員數見込何人
 内男何人
 女何人
 一 經費
 收入ノ部
 金何程
 内
 金何程
 町村費
 金何程
 支出ノ部
 金何程
 町村費
 金何程

内金何程 材木代
 金何程 瓦代
 金何程 石代
 金何程 硝子代
 金何程 職工賃
 金何程 人夫賃
 金何程 諸雜費

右ノ通りニ候也
 月日 何町村何ヶ町村戸長何某印

郡長宛

訓令第二百二十一號 明治廿年八月十一日
 今般本縣令第二百二十參號ヲ以テ小學校就學旗規則被定候ニ付該旗掲揚ノ實チ有スル小
 學校ニ於テハ同則第參條ノ制限ニ依リ毎年四月十月ノ兩度其月十日限り左ノ項々ニ準シ

別紙様式ノ調査表相添へ申出ヘシ

一皆就學又ハ八歩以上ノ實ヲ有シ特別旗又ハ一等旗ヲ掲グルコトヲ得ヘキ小學校ニ於テハ
郡長へ内申スヘシ

一就學七分以上ノ實ヲ有シ二等旗ヲ掲グルコトヲ得ヘキ小學校ニ於テハ規則第六條ニ依リ郡
長へ請求スヘシ

一就學六分以上ノ實ヲ有シ三等旗ヲ掲ケントスル小學校ニ於テハ其十日前郡長へ申開ス
ヘシ

調 査 心 得

一本表ハ毎年四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄ノ兩度トシ四月ヨリ九月迄ノ分ヲ十
月ヨリ翌年三月迄ノ分ヲ四月ニ調査スヘシ

一通學町村ハ本年一月告第百十二號ニ據リ記載スヘシ

一學齡人員ハ其校通學町村各月一日現在數ニ據リ記入スヘシ

一就學生徒數ハ其校通學町村ヨリ現ニ高等尋常及ヒ簡易小科學校へ就學スル生徒ヲ記入
スヘシ故ニ尋常校ニ於テハ其通學町村外ヨリ就學セル生徒ヲ除クヘシ

一學齡人員百中就學生徒數ハ就學者ノ合計數ニ百ヲ乘シ學齡人員ヲ以テ扣除シタルモノ
ヲ記入シ其分數ヲ併記スヘシ

一本表就學者トハ學齡就學者ノ欄四項目ニ該當スルモノヲ云フ

一平均數ハ學齡人員及就學者ノ二欄ハ各六ヶ所ヲ平均シ學齡人員百中就學生徒數ハ前項
ニ準據シ上二欄ノ數ヲ以テ乘除スヘシ

但學齡人員及ヒ就學生徒ノ平均數ハ四捨五入ヲ算シ以テ人位ニ止ムヘシ

訓令第二百廿八號

明治廿年八月廿三日

本年石川縣訓令第七十號小學校組合格則第四條ニヨリ組合教員集會候都度其實況別記書
式ニ準シ會期后三日以内ニ開申スヘシ

但明治十七年能勤學十五號達ヲ廢止ス

別記

能美郡何小學校組合集會實況開申

一會期

明治何年何月何日午前何時ヨリ午後何時マテ

一 議定事項

敬 養

會員何誰ノ發言ニヨリ何々ノ事項ヲ談話又ハ講究セリトカ其他決議ノ要項實施ノ期節等其會合ノ梗概ヲ筆記スヘシ已下之レニ倣ヘ

學術

校務

一 會長

官 氏 名

一 出會員

官 氏 名

一 欠席員

官 氏 名

事故届出タル者

官 氏 名

事故届出サル者

官 氏 名

右今回開設候定期集會眞況如斯ニ候條此段開申候也

月 日

何小學校組合主校長氏名

郡 長 宛

訓令第二百參十一號

明治廿八年八月二十七日

本年一訓令第參十號本郡小學校生徒貯金細則第十六條左ノ通り改正ス

第十六條校長ハ毎年二月廿日七月十日限り第五號書式ニヨリ前半年中生徒貯金調査表

ヲ制シ郡長ハ届出ツベシ

訓令第二百參十參號

明治二十年八月三十一日

本年十一月十一日石川縣訓令第百參十六號小學校生徒等現員ハ別紙心得書ニ依リ調査スヘシ

但學校長兼務小學校ニ於テハ首席職員代理ヲ以テ調査シ擔當局長ノ認印ヲ取り組合

主校へ回送シ組合主校ニ於テハ組合内各校分チ取纏メ進達スベシ
(別紙)

一 學齡人員中就學者ニシテ甲小學校通學町村ノ者乙小學校へ就學スルモノアルハ甲乙
像メ協議ヲ遂ケ製表前其等級及ヒ員數ヲ調査シ當該小學校へ通報スベシ
一 學齡起過ノ者又ハ他ノ通學町村ヨリ就學セサルモノアルハ出席生徒ノ欄へハ仮令ハ
第一何十名ト記入シ左脇書ヲ以テ内學齡外ノ者何名他校通學町村名ト記シ判然當該
學校通學町村内學齡兒童就學ノ多寡ヲ明瞭ニスヘシ

但本文脇書并ニ他校へ就學ノ者ハ學齡人員中就學者ノ欄へモ同様記入シ且他校へ就
學ノ者ハ外何名他校就學ノ者ト記載スヘシ

一 第二表學齡人員就學ノ猶豫ヲ得シモノトアルハ當初就學調査ノ結果即チ家計困窮ヲ以
テ就學猶豫ノ者ハ簡易科就學猶豫トシ身元確實ナルモ病氣ノ爲メ就學猶豫ノ者ハ尋常
科以就學猶豫トシ其通學不便ニ係ルモノハ調査官ノ見込ヲ以テ判別スヘシ

一 第二表中尋常科若シクハ簡易科若シクハ舊初等科卒業トアルハ現在學者及ヒ退學者ヲ
合セ指所シタル義ニ付仮令ハ舊初等科若シクハ簡易科ヲ卒業シ現ニ尋常科へ就學スル

者アルハ尋常科ニ在テハ就學者ノ内ニ簡易科ニアツテハ卒業者ノ内ニ各算入通計ス
ベシ然ルハ自然重複ヲ來ス義ニ付表未欄外へ就學人員何百何十人内舊初等科若シク
ハ簡易科卒業ノ者何人ト明記スベシ其簡易科及ヒ尋常科ヲ合セ卒業ノ者ハ單ニ尋常科
卒業ノ者ト見做シ起算スベシ

訓令第二百五十二號

明治廿年九月廿九日

東京育英社幹事長本縣士族井上祥ヨリ同人等設置ノ育英社ニ於テ貸費生徒撰抜ノ際右貸
費出願者ノ履歷書ニ本人族籍ヲ證明スル當該戸長ノ與書ヲ要シ度旨申出候ニ付テハ該社
貸費方法ハ縣下學生ノ爲メ其功益鮮少ナラサル義ニ付自今右貸費志願者ヨリ族籍證明方
申出候節ハ戸長ニ於テ速ニ與書候條取計フベシ

訓令第二百六十三號

明治廿年十月十日

町村學事委員名簿雛形左ノ通り相定候條自今新任者ヨリ壹葉宛取立指出スベシ
名簿雛形用紙中折十六切

能美郡何町何番地
 士族 戸主又ハ何々
 平民 戸主又ハ何々
 一町村學事委員 何ノ誰印
 何小學校下擔當 生年月
 拜命月日

訓令第五十五號

明治廿一年二月十七日

明治廿年三月三十一號本郡小學校組合及組合主校別紙ノ通り改定ス

訓令第七十四號

明治二十一年三月八日

町村共同ニ係ル建物ニシテニ番學區へ使用方寄附田願免許ヲ得タルモノニ對シ營繕必要スル場合ニ於テハ其理由并ニ價格ヲ詳記シ學校長戸長連署ヲ以テ伺出ツベシ

訓令第一百十八號

明治廿一年四月廿八日

本郡就學牌規則別紙ノ通り相定メ候ニ就テハ寄附金ヲ以テ其經費ヲ支辨シ其校限り施行スベシ

能美郡小學校就學牌規則

- 第一條 本則ハ本郡子女各自ノ就學ヲ旌表シ就學ヲ勸奨スル爲ニ設ケルモノトス
- 第二條 就學牌ハ高等科尋常科簡易科各小學校通シテ其生徒ニ交付佩用セシム
- 第三條 郡内生徒若シ甲校ヨリ乙校ニ轉スルハ甲校ニ於テ其佩牌ヲ返還セシメ乙校於ニテ更ニ交付スルモノトス
- 第四條 生徒若シ簡易科又ハ尋常科ヲ卒業セズシテ退學スルハ其佩牌ヲ返還セシム但高等科ハ此限ニアラス
- 第五條 生徒欠席三ヶ月ニ及フハ一時佩牌ヲ返還セシメ再ヒ出席スルハ之ヲ交付スベシ
- 第六條 就學牌ハ圓形ノ真鍮製ニシテ表面ニ就學ノ二字ヲ嵌シ裏面ニ數字ニテ番號ヲ記スベシ其圖左ノ如シ

但寸法ハ圓徑二寸五分厚サ八厘

赤綬



裏



第七條 生徒就學牌ハ其綬系ヲ胸間左方ニ縫着平時出校スルト否ト是問ハ必佩用スベシ

第八條 小學校ニ於テ就學牌原綴ヲ毀シ罷生徒ニ交付ノ都度記入スベシ

訓令第三百三十四號

明治廿一年五月廿八日

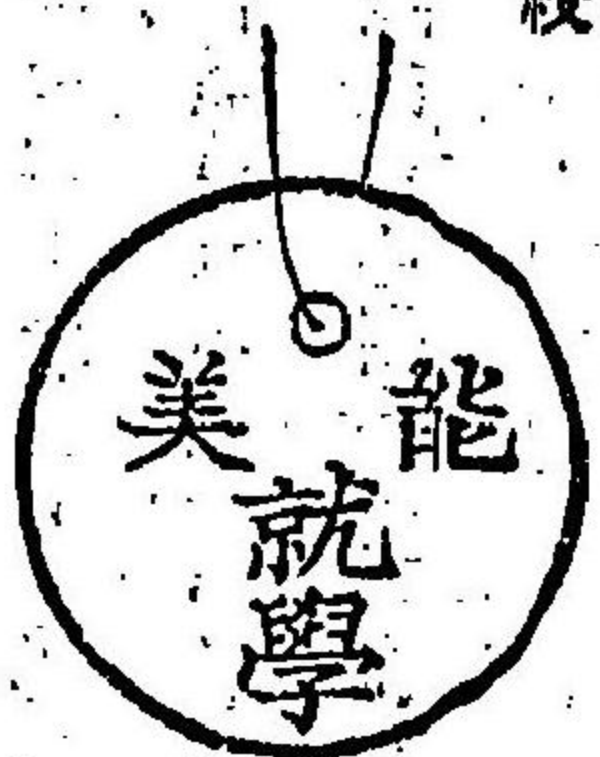
本年四月訓令第三百十八號本郡就學牌規則中左記ノ通り改正追加ス

第四條 生徒退學スルハ簡易科又ハ尋常科又ハ高等科ヲ卒業スルト否トニ關セス渾テ其佩牌ヲ返還セシム

但舊制除

第六條 就學牌ノ品質形狀左ノ如シ

赤綬



其餘製圓徑

一寸三分厚五厘

追加

第九條 就學牌ヲ紛失セル者ハ其生徒ナシテ之ヲ弁償セシムベシ

訓令第三百二十二號

明治二十一年五月廿八日

本郡小學校授業生月給額左記ノ通相定ム

一等給	二等給	三等給	四等給	五等給
四圓九十錢	四圓五十錢	四圓	三圓五十錢	三圓

訓令第三百二十三号

明治廿一年五月二十八日

從來學校職員ニ欠乏ナ生シ一時雇ナ以テ補充ヲ要シ候節ハ月給ヲ以テ採用致シ來リ候處月給支給ノ義ハ本年十月三十日限り相廢止同年十一月一日ヨリ左ノ階級ニ依リ日給ヲ以テ採用スヘシ

日給階級

十五錢	十二錢	十錢	八錢	五錢
-----	-----	----	----	----

訓令第四百四十六號

明治二十一年六月十八日

學齡兒童ノ就學ヲ勸奨スル場合ニアリテ止ムヲ得サル向ハ戶長學事委員ヨリ其人名ヲ指シ説諭方各管區巡査ヘ直チニ依頼可致義本縣第二部ヨリ警察本部ヘ打合相成候趣其筋ヨリ通知越候條此旨心得ヘク猶部内學事委員ヘ洩ナク通知方取計ヘシ

訓令第四百七十八号

明治二十一年九月十一日

明治廿一年一月訓令第三十号學校生徒貯金細則第十六條中七月十日ノ四字及ヒ半ノ一字ヲ刪除ス

訓令第九十二号

明治二十一年十月九日

明治廿一年一月訓令第三十号小學校生徒貯金細則第五号様式別紙ノ通り改定ス第五号

組合名	調査主任職名	氏名印	學校名		生徒人員		金額	惣金額
			男	女	男	女		
合計	何校		女	男	女	男		

年月日

郡長宛

組合主校長

氏名印

本表ニハ毎年十二月現在ノ生徒ニ就キ貯金セシ金高及其人員ヲ男女別記入スベシ
本表中學名ノ欄ニハ貯金ノ有無ニ關セズ組合内學校ハ總テ記載シ生徒人員以下空欄ナラ
ハ「」ヲ填充シテ脱漏ニアラサルヲ證スベシ

本表ハ組合内小學校ヨリ材料ヲ纏メ主校ニ於テ一表ニ調製スルモノトス

訓令第二百七号

明治廿一年十一月二日

小學校雇ハ教員欠乏ヲ生スル場合ニ於テ之ヲ要スル義ハ本年五月訓令第三百二十三号ヲ以テ
相違シ世キ候處目今男子教員ハ授業生以上ヲ以テ一級ニ組織シ得ベク付自今雇ハ女子
外洋テ相廢ス

但唱歌体操裁縫英語農業手工商業ノ中一科若シクハ數科教授ノ爲メ雇入ルモノハ此
限リニアラス

訓令第二百十二号

明治廿一年十一月九日

簡易科小學校ノ生徒ハ毎日午前午後ニ分テ各三時間宛教授スベキ旨今般該科小學校ニ訓

令候ニ就テハ因襲ムクシキ自ラ午前ノ授業ヲ好ムノ傾キ有之候テハ遂ニ一般ノ實施ヲ期
シ難クニ付此際經濟上ノ得失并ニ教授上ノ利害ニ就キ學事委員及部内一般ニ懇切諭示ス
ベシ

内第廿八号

明治二十一年五月二十八日

小學校授業生ノ任免等ニ付意見アルハ別紙手續書ニ據リ調査シ内申スベシ
右内通ス

(別紙)

小學校授業生任免等内申手續書

- 第一條 新ニ授業生ノ任用ヲ内申セントスルハ本人原籍地若シクハ前ニ在勤セシ學校
等へ本人ノ學力才幹及從來ノ行爲ヲ承合シ并ニ本人ノ免許狀及ヒ其履歷ヲ詳查スベシ
- 第二條 授業生ノ辭職ヲ願出ツル者アルハ其事情ヲ質シ許否ノ見込ヲ添申シテ差出ス
ベシ
- 第三條 新任并ニ轉任等内申書式左ノ如シ

(書式)

小學校授業生任用ノ儀内申

何科何小學校授業生

氏名

何等給

年月日生

右ノ者頭書ノ通り御任用相成可然別紙履歴書相添へ見込内申候也

月日 學校長 氏名 印

郡長宛

(履歴書)

履歴書

族籍 (寄留ノ者ハ其寄留地ヲ添
配スヘシ)

氏名

生年月

一 免許狀

何郡區授業生免許狀トカ原本ヲ配スヘシ

一 學業

修學ノ場所教師年限學科目ヲ配スヘシ

一 職務

就職ノ場所職名俸給年限ヲ配スヘシ

一 賞罰

賞罰ノ事由ヲ配スヘシ

右ノ通り候也

右

月日

氏名 印

小學校授業生聘任ノ儀内申

何科何小學校授業生何等給

何科學校授業生

氏名

何等給

右ノ者何年何月何日肩書ノ通り御任用相成候處今般何々ノ事由ニ依リ頭書ノ通り御轉相

成可然哉見込内申候也

月日

學校長

氏名印

他ノ組合へ職任ノ者ハ兩學校長連署ス

郡長宛

小學校授業生増給ノ儀内申

何科何小學校授業生何等給

何等給

氏名

右ノ者何年何月何日何等給御給與相成候處職務格別勉勵候ニ付今般頭書ノ通り御増給相成可然哉見込内申候也

月日

學校長

氏名印

郡長宛

内第二十九號

明治廿一年五月廿八日

舊初等科若シクハ舊中等科教員免許狀ナ有シ又ハ舊師範學校初等科卒業証書ナ有スルモ

ノヲ尋常科又ハ高等科小學校ニ任用スル所ハ授業師ノ名義ヲ以テスベク内定ニ有之候處

自今假令其學校ノ訓導タルヲ得ベキ資格アル者ト雖モ三ヶ月以上必ス授業師ノ名義ヲ付

シ採用候條右ノ場合ニ於テハ渾テ本年内第二十八号本郡小學校授業生任免等内申手續書

ニ據リ取扱フベシ

但將來本縣尋常師範學校ニ於テ卒業ノ者ヲ直チニ任用相成ルベキ場合ハ本文ノ限リ

ニアラス

右内達ス

内第三十號

明治廿一年五月廿八日

自今小學校任免等見込内申ヲ要スル所ハ渾テ本年内第二十八号本郡小學校授業生任免等内申手續書ニ準據スベシ

右内達ス

内第三十一号

明治廿一年五月廿八日

今般本郡小學校授業生任免等内申手續及其月給額且授業師任用方之義令達候ニ付テハ自今授業師及授業生一學校ニ於テ二年已上勤務セスシテ辭職シタルモノハ其後六ヶ月ヲ經サレハ新タニ任用セス又一學校ニ一ヶ年以上勤務シタルモノニアラサレハ轉任セシメス且又一學校一年以上勤務シ其功績著シキモノニアラサレハ増給セシメサル事ニ内定候條將來輕々ニ進退セサル様授業師及授業生へ洩ナク通知スベシ

但授業師中其校訓導タルノ資格ヲ有シ三ヶ月已上勤務セシ者ヲ訓導ニ採用若クハ三ヶ月以内ニ轉セシメ且學校經費ノ都合ニヨリ轉任セシムルハ本文ノ限リニアラス右内達ス

内第五十号

明治二十一年十月二十三日

本年五月訓令第百三十三号ヲ以テ小學校雇日給階級相定置候へハ組合主校事務主任ノ雇ニ限リ日給十七錢迄ヲ支給スルヲ得ル右内達ス

訓令第七号

明治二十二年一月八日

高等小學生徒ハ既ニ尋常一様ノ普通教育ヲ終へ更ニ高等普通學科ヲ履修スル者ナレハ成業ノ後ハ其地位實際ヲ論セス其學術ヲ實理ニ近カラシメ併セテ思考行爲及言語ノ慣習皆其真正ヲ得セシムヘキヲ最重要ニ付隨時本校生徒ヲシテ學校外ノ人ニ接シ主トシテ學術上ニ關スル疑問ニ應セシメ兼テ討論講談ヲサシメン爲メ今般別紙攻玉會々則相定候就テハ本月二十日ヨリ二十二日マテ本郡公會堂ニ於テ右開設候條部内人民へ普ク通知シ精誠參會候様注意致スヘク尙將來開設候節ハ能美小學校ヨリ公告スヘク等ニ付其都度同様取テフヘシ

攻玉會々則

第一條 本會ハ高等科能美小學校ノ生徒ヲシテ博ク他ノ疑問ニ應シ兼テ討論講談ヲナシ平素修得セシ知識ヲ練化陶成セシメ益實理ニ近カラシムルヲ以テ目的トス
第二條 本會ハ攻玉會ト稱ス

第三條 本會ハ問答討論講談ノ三トシ其學科ハ讀書算術理科歴史地理英語等トス

第四條 本會ハ能美郡公會堂ニ於テ之ヲ開ク

第五條 開會期日ハ隨時之ヲ定メ其都度豫メ公告スベシ

第六條 何人ト雖モ二十歳以上ノ人ハ總テ參會スルヲ得但學校職員ハ十九年以下ト雖モ參會スル妨ナシ

第七條 參會人ヨシテ質問セント欲スルモノハ本會管理者ノ許諾ヲ經ヘシ

第八條 本會管理上及ヒ成績上ヨリ關スル規定ハ別ニ之ヲ設ク

第九條 明治二十二年二月五日

尋常科第四年期及ヒ簡易科第三年期生徒卒業試業細目問題標準別冊ノ通相定候條此旨心得

右内達ス

(別紙)

尋常科第四年期簡易科第三年期卒業試業細目問題標準

凡 例

一本問題ハ其程度ヲ示スモノナレハ必シモ該問題ヲ以テ試業スベキコアラズ試業際該問題ヲ標準トシテ適當ノ問題ヲ選擇スベキモノトス

一尋常科三年期簡易科二年期以下モ該標準ニヨリ問題ヲ選擇スベシ

尋常科四年期卒業試業細目問題標準

修身科百点

嘉言善行三題六十点

例(一)人禮アレハ則チ安ク禮ナケレハ則チ危シノ實事ヲ問フ

(二)後三條天皇ノ儉素ヲ談話シ格言ヲ試ム

(三)忍耐ノ解釋及ヒ其格言事實ヲ問フ

作法二節四十点

例(一)同輩ニ對スル心得

(二)出校ノ時ノ心得

平素行狀百点

讀書科百点

漢文交リ文六十点

讀方二ヶ所二十点

(一)師範學校 小學讀本三ノ卷ノ中大凡六行

(二)新正讀本七八ノ卷ノ中或ハ單簡ナル地理歴史理科ニ關スル事項(大凡前項小學讀

本六行ノ字數

意解二ヶ所二十点

(一)前項小學讀本素讀ノヶ所ヲ意解セシム

(二)前項(新定讀本或地理歴史)素讀ノヶ所ヲ意解セム

摘字二十点

讀方五個十点

例貯金禍福光陰ハ矢リ如シ新陳培養

意解五個十点

前項素讀ノヶ所意解セシム

前期分二十点

讀方一ヶ所十点

小學讀本二ノ卷ノ中大凡四行

意解一ヶ所十点

前項素讀ノヶ所ヲ意解セシム

作文科百点

漢字交リ文一題三十点

例蠶

蠶ハ卵生ノ虫ナリ春解スルヲ春蠶ト云フ夏解スルヲ夏蠶ト云フ桑葉ヲ餌トス

繭ハ其作ル所ノ巢ニシテ糸ハ皆之レヨリ製出ス小虫ト雖モ人間ノ用ナス大ナリ

日用書類一題四十点

例詠物出来方ヲ催促スル文

先般御詠申候書筒口ニ期限モ經過候得共干今御回送之レナク至急入用ニ御坐候間兩

三日中ニ是非御出来御送り被下度候拜具

公文一題三十点

例 寄留届

何郡區何町村何番地

平民名何男

名

何月生

右何年何月何日本縣何郡區何町村何番地氏名へ寄留致候間此段御届及候也

右

氏名印

右家主 氏名印

戸長宛

習字科百点

日用書類行書 二十行 百点

算術科百点

四則雜題六十點

運算二個十點

例一 (4508 + 3354 - 7129) × 2435

二 (3370 + 32 × 43) ÷ 678

應用三個五十點 理解二十五點 答式二十五點

例一 甲乙二人連テテ小松町ヨリ金澤ニ遊フ其共同諸費左ノ如シ依テ之ヲ決算スルコ

ハ甲ハ乙ニ若干金ヲ収メテ可ナルヤ

一金八十錢往復乘車費

一金二圓五十五錢 滞在三日間宿料

一金十九錢全晝飯并茶代

茶代等諸費

右甲取替

右乙取替

(二) 甲乙二人同日ヨリ貯金ナシ卅一日ヲ經テ之ヲ閱セシム共ニ金二十六圓四錢ニシ

テ乙ハ十一圓十六錢ナリ甲ハ日ニ若干金ヲ貯ヘシヤ

(三) 種油七升ト石炭油一斗二升ト其價同シ今種油一升ヲ二十四錢トスレハ石炭油一

升ノ價如何

珠算乘法 二題二十點

例一 四百五十六ニ五百六十七ヲ加ヘ七百八十九ヲ乘ス

例二 八千六百九十七ヨリ二千七百四十五ヲ減シ九十三ニテ除ク

暗算 二題二十點

(一) 一升二十四錢ノ種油五合ノ代價

(二) 三十錢ニテ五錢五厘ノ小豆一升ト四錢ノ大豆二升ヲ買フトキハ殘金

圖書科百點

輪廓畫 一指七十點

例一 茶釜ノ輪廓畫

工夫畫 二個三十點

例一 直角五個ノ結合

(二) 直線五條ト大小圓各一個ノ結合

唱歌科百點

尺譜 三十點

歌典 五十點

聽音法 二十點

体操科百點

陸路体操 五十點

徒手体操 五十點

裁縫科百點

簡易十八衣類ノ縫方 百點

簡易科三年期卒業試業細目問題標準

讀書科百點

漢字交リ文六十點

讀方ニテ所二十點

(一) 師範學校 小學讀本二ノ卷ノ内 大凡五行

(二) 新撰讀本五六ノ卷ノ内 大凡前項小學讀本五行ノ字數

(三) 或ハ往來物

意解貳ヶ所四十點

(一) 前項小學讀本素讀ノヶ所ヲ意解セシム

(二) 前項 新撰讀本或 素讀ノヶ所ヲ意解セシム

摘字貳十點

讀方五個十點

例成長破損繕ナキ近國繪卷

意解五個十點

前項素讀ノヶ所ヲ意解セシム

前期分貳十點

讀方一ヶ所十點

師範學校 小學讀本ノ中大凡三行

意解一ヶ所十點

前項素讀ノヶ所ヲ意解セシム

作文科百點

漢文交リ文一題四十點

例 石 盤

石盤ハ平薄ナル石ニ木ノ縁ヲ付ケ造リタルモノニテ算術ヲナシ文字ヲ習フニ用フ

ルモノナリ

口上書類貳題六十點

例(一) 品物ヲ買フニ遣ル文

並中折五帖上等系紙ニ東御賣渡シ相成度代金后ヨリ御拂申ヘク候間一寸御知ラセ

下サレ度候

(二) 器物ヲ返ス文

御大事ノ銀長々拜借イタシ有難ク御禮申上候即チ御返申候間御請取被下度候

習字科百點

日用文字五十點 一行四字

口上書類五十點 一行五字

算術科百點

四則雜題八十點

運算貳題貳十點

例一 八百四十九ニ五百七十三ヲ加ヘ四百九十六ヲ乘ス

例二 八千三百五十八ヨリ五千四百六十九ヲ減シ三百二十一ニテ除ク

應用三題六十點

例一 一人夫三十六人ヲ二十一日間備フ今日ノ飯米一人ニ付六合トセハ總飯米幾何ナルシ

例二 目形五貫八百匁ニ付十七錢四厘ヲ炭三十二貫五百匁ノ代價如何

例三 米七十三石アリ之ヲ二様ノ俵ニ作ル其一ハ四斗入ニテ四十五俵ヲ製シ其残り

ヲ俵五斗入ニ作ラントス俵數如何

暗算二題二十點

例一 東二十錢ヲ中折紙七束ヲ買ヒ七圓札ニテ拂フハ殘金如何

例二 貳十四錢ニテ墨三本十八錢ニテ筆六本ヲ買ヘリ各一本ノ代價如何

告示第二十一号

明治二十二年二月十二日

明治廿年一月告示第十二号本郡小學校及小學簡易科通學町村中尋常簡易ノ部田子島村ノ通學村中粟生村字木呂場ヲ除キ更ニ粟生村ノ通學村中へ編入ス

内第十六号

明治廿二年三月六日

其職儀公衆ト共ニ政治上ニ關スル事項ヲ講談論議シ又ハ政黨ニ奔走尽力スル義有之候テハ教育上不都合ニ付右様ノ義無之様致スヘク且教員ニ於テモ同様右等ノ舉動無之様屹度取締致スヘシ
右内達ス

訓令第三十四号

明治廿二年三月八日

明治二十一年二月訓令第五十五号本郡小學校組合組合主校別表中白峯小學校組合主校ヲ廢シ白峯以下三小學校ヲ上吉谷小學校組合中へ編入スベシ

訓令第六十一号

明治二十二年四月十二日

町村共同ニ係ル建物ニシテニ番學區へ使用方寄附出願允許ヲ得タルモノニ對シ營繕ヲ伺
出ル時ハ戶長連署ノ義客年三訓令第七十四号ヲ以テ令達置候處自今組合主校長ヲモ同様
連署スベシ

内第廿八号

明治廿二年四月十七日

明治廿一年五月内第廿九号廢止ス

右内達ス

乾九十一号

明治十八年四月廿四日

文部省出版々權所有ノ圖書中世上近來偽版ヲ發行販賣候モノ有之哉ニ付明治十四年五月
以後ノ刊行書ニハ每冊印紙ヲ貼附シ若シクハ印章ヲ捺用有之旨客月九日附テ以テ内達及
置候右印章并ニ印紙ハ別紙見本ノ通りニ有之候ニ付テハ每學區へ貳葉宛配付及ヒ置候條
一葉ハ學務委員事務所一葉ハ高等學校(組合)ニ備置可ク此旨相達候事

訓令第八號

明治廿二年一月八日

明治二十一年九月當應訓令第七十七號中(山願)ノ下へ屈ノ一字ヲ插入ス

正 誤

客年十二月二十八日訓令第二百卅一號又中訓令第七十六號トアルハ八十八號ノ誤植

○勸業ノ部目次

● 乾第七十七号	明治十八年	勸一丁
● 乾第五百五十七号	全	全八丁
● 乾第九百九十七号	全	全
● 乾第八号	明治十九年	全
● 乾第二十三号	全	全三丁
● 乾第三十四号	全	全
● 乾第八十九号	明治十九年	全五丁
● 内達	明治十九年六月九日	全六丁
● 訓令第九十六号	明治十九年	全七丁
● 訓令第二十九号	明治廿一年	全八丁
● 訓令第三十一号	明治二十年	全九丁
● 訓令第八十八号	全	全十二丁
● 訓令第三十七号	明治廿一年	全
● 訓令第五十六号	全	全十二丁
● 訓令第七十一号	全	全十三丁

- 訓令第百十号 全
- 訓令第百六十七号 全
- 訓令第百八十七号 全
- 訓令第百二十七号 全
- 告示第三十号 明治十二年 全
- 訓令第七十号 全
- 号外訓令 明治廿二年三月廿六日 全
- 訓令第九十五号 明治廿二年 全
- 訓令第八十九号 全

郡規類集

勸業之部

●乾七十七号(明治十八年四月四日)

統計材料中質屋金利歩合別紙書式ニ照シ取調昨十七年分ヨリ毎翌年四月八日限り差出ス

ヘシ此旨相達候事

一別紙

質屋金利歩合		某戸長役場	
		千圓ニ對スル	百圓ニ對スル
平均	最高最低	平均	最高最低

本表ハ利息制限法ニ拘ハラス衣服ヲ質物トナセルモノ、利子ヲ記入スヘシ「平均」一ケ年
間ノ平均ヲ掲クヘシ「最高最低」一ケ月間平均ノ最高最低ヲ掲クヘシ

●乾九十一号(明治十八年四月廿四日)

文部省出版々權所有ノ圖書中世上近來偽版ヲ發行販賣候モノ有之哉ニ付明治十四年五月以後ノ刊行書ニハ每冊印紙ヲ貼附シ若シハ印章ヲ捺用有之旨客月九日附テ以テ内達及置候右印章并ニ印紙ハ別紙見本ノ通りニ有之候ニ付テハ每學區ニ貳葉宛配付及ヒ置候條一葉ハ學務委員事務所一葉ハ高等學校(組合)ニ備置可ク此旨相達候事

●乾百五十七号(明治十八年七月廿九日)

諸鐵山借區運轉稼入ノ中除名田願候者有之節ハ殘坑業人身元調ノ添客年七月能勤五十九号達ニヨリ取調意見書進達スヘシ此旨相達候事

●乾第九十七号(明治十八年九月廿九日)

客年六月農商務省第十九号布告商標條例ニ依リ登錄商標見本衆庶ノ觀覽ニ供シ候様取斗方其筋ヨリ照會右見本回付相成候ニ付當衙ニ於テ製帳備置候條部内勸覽望ミノ者ハ出頭ニ覽候様普ク前達致スヘシ右相達候事

●乾八号(明治十九年二月十五日)

稻作改良ノ義ニ付既ニ作十八年十二月及内達置候次第モ有之候處今般更ニ稻作改良法大

意別册ノ通り編纂配布候條其部内各町村觀業世話掛ヘモ壹部宛配置シ改良ノ實効ヲ奏シ候様厚ク注意致スヘシ

右相達候事

●乾第二十三号(明治十九年二月五日)

本郡人民舊雨新知下ニ移住志願ノ者有之ノ節ハ移住者惣代ノ名義ヲ以渡航シ土地撰定豫備ノ儀出願スルモ其目的確實ナラサルモノ或ハ惣代ノ資格ヲ帶香スルノ如何判然不致取扱上不都合ノ者有之依テ以來前陳渡航ノ場合ニハ本縣廳ノ添書ヲ携帶セサル者ハ一切受理不相成且ツ該縣下ニシテ一區畫ニテ數十方坪ノ耕宅地ハ最早難撰定旨併セテ其筋ヨリ通知來候條此旨爲心得相達候事

●乾第三十四号(明治十九年二月廿日)

明治十八年九月甲第百六十号布達傳傳營業取締規則第壹條陸運受負人馬繼立陸運稼業ノ各營業ノ加キハ密接關係ヲ有スルモノニシテ勤モスルハ其區域ヲ誤リ不都合不掛概今回其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條別紙各種營業解說書ニ據リ可取扱爲心得此旨相達候事

驛傳取締規則中各種營業區解說書

第一章 第一條

一陸運受負

右ハ何レノ地ヲ問ハス甲乙約束ノ地ヘ運送スヘキ物貨ナ一人又ハ數人ヨリ受負ナナスモ
ノ途中談送人ヲ以テスルト否トハ受負人ノ見込ニ依リ且荷主ニ代リ船主船長ヘ其物貨引
渡シ又ハ船主船長ヨリ引受若クハ乗船主ノ荷物ヲ受負ナナスモノ
一人馬繼立

右ハ常ニ車駕人馬ヲ備ヘ何人ヲ問ハス其需ニ應スルヒノニシテ自ラ物貨ヲ受負又ハ送り
放シノ荷物ヲ取扱ヘキモノニアラス
一旅人宿

右ハ旅館屋牛馬宿温泉宿総テ旅人及牛馬ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ
一人力車

自己ノ車トハ自ラ處有スル車ヲ云フ備車トハ他人借受ケ之レヲ扱シモノヲ云フ賃車トハ
車ヲ所有シ賃シ賃ヲ取り受ケ營業ナスモノヲ云フ
營業ノ際乗客携帯ノ乗載スルモ妨ナシ

營業者ニ於テ甲地ヨリ乙丙ノ兩地ヲ經テ丁地ニ直行シ其地ニ於テ營業スルカ如キハ其途
中乙丙ノ組合規約ニ從ハシムルニ及ハサルモノス
一馬車

荷積馬車ヲ除ク外總テ人力車ト全シ

一渡舟

ホ支道川々シテ橋梁ノ設ナク行旅不便ノケ所ニ在テ營業ナスモノヲ云フ
一陸運稼業

右ハ何人ヲ問ハス備使セラレテ物貨ヲ自カラ春負ヒ或擔ヒ又荷車荷牛馬糶牛馬ヲシテ運
搬若クハ搬籠カキ及飛脚ヲ爲スモノヲ云フ數人ノ物貨ヲ受負運搬スルヲ得ス

濱仲士或ハハマバト唱ヘ蒸籠ノ陸物貨ヲ春負或ハ之レヲ擔ヒ荷主ヘ運搬ナナスモノ又ハ
荷主ヨリ船々ヘ積込送ノ運搬ナナスモノ總テ稼業人トス

◎ 宣統九年五月十四日

客年八月舊大政官布告第二十八號附錄免許規則第五條ニ基キ本年三月本縣甲第四十六號
ヲ以テ仮開業免狀出願規則下達相成有間規則共來ル七月一日ヨリ施行相成候處而規則ニ

ヨリ未ダ出願候モノ無之然ルニ爾來許可ヲ受ケタル獸醫モ來ル六月三十日限り營業相不成サル管ニ候條心得違ノ者無之陸部内普ク示諭可致此旨相違候事

但シ新ニ獸醫開業試驗ヲ受ケント欲スルモノハ毎年六月十二月中本縣廳ニ願書差可出成規ニ候條此旨併テ示諭致置可シ

◎（明治十九年六月九日）

北海道渡航保護出願ノ者農業ノ目的ヲ以テ移住セント欲スルモノニシテ勞力ニ堪ヒキ強壯者無之或ハ食料ノ用意アラスシテ移住ノ后非常困難ニ陥リ候者又ハ渡航保護許可ニ拘ハラス既ニ出發ノ準備致シ其后開届ラレサル指令ヲ得テ進退ニ窮スルモノ間々有之爲メニ衷願普情申立甚ク不都合ノ次第ニ付向后退住渡航保護出願致シ候ハ、別紙項目ニヨリ適否調査ヲ遂ケ進達可取計最モ指令ヲ得サル以前決シテ輕忽ノ舉動無之様注意可致旨内達相成候條該出願者有之節ハ右ノ通り深ク注意取扱此旨及内達候也

（別紙）

一農業ノ目的ヲ以テ移住セント欲スルモノハ一戸中滿十六年以上五十年未滿ノ男女二人以上勞働ニ堪ヒキモノアルヲ要ス

二家産ノ程度ハ男女平均一日玄米四合ノ割ヲ以テ移住后一ケ年間ノ食料アルヲ要ス

三前項不合格ノ者及ヒ移住ノ爲メ故ヲ分籍セシモノハ保護ノ限リニアラス

但同盟渡航者ノ内ニテ資金共通ノ法ヲ得ルモノ或ハ一家中先住ノ者アリテ止得ヌ出願スルモノ、加キハ具申ヨリ特別ヲ以テ保護スルコトアルヘシ

◎訓令第九十六号（明治十九年十月二十日）

驛傳營業ノ内陸運稼業願届書式左ノ通り相定メ候條自今別紙雛形ニ照準指出スヘキ様示達方取斗フヘシ

但明治十八年乾二百六十一号達ハ消滅ノ義ト心得ヘシ

右訓令ス

陸運稼業願

明治十八年甲寅百六十号布達ヲ遵守シ陸運稼業仕度候間御許可被下度此段奉願候也

郡區町村族籍

月 日

姓 名 印

組合驛傳取符

郡長宛

廢業届

陸河稼業仕居候處今般廢業仕候間此段御届及候也

郡區町村族籍

月 日

組令驛傳取籍

姓名印	姓名印
姓名印	姓名印

郡長宛

訓令第二十九号(明治廿一年一月廿九日)

水族ノ盛殖ヲ謀リ隨ツテ諸種ノ漁法及ヒ製造品ノ改良ニ至ラシムルハ日下ノ急務ニ有之然ルニ近來ノ實況ヲ觀察スルニ適々海産物ノ忽諸ニ付スヘカラサルヲ辨知スルモ實業從事ニ至テハ未ダ姑息ノ情ヲ免ルコト能ハス就中甚シキハ眼前ノ小利ニ走リ終ニ蕃殖ヲ妨ケ或ハ川魚ノ溯ラントスルモ水戸口ニ於テ卵生ノ害ヲ興フル等鮮カラス依之昨明治十九年

甲第七十九号縣達漁業組合准則ニ基キ速ニ組合ヲ設ケ川瀉ニ於テハ専ラ魚類ノ盛殖及ヒ濫漁ノ弊ヲ矯正シ海面ニ於テハ遠海漁法及ヒ製造品ニ改良ヲ加ヘシメ尙將來水産蕃殖保護上厚ク注意致スヘキ旨訓令相成候條組合設置方等普ク漁業者ヘ示諭シ漁法ノ改良ヲ計畫スヘシ

訓令第三十一号(明治二十年一月三十一日)

本年縣令第七号ヲ以テ職醫夜間業免許手續達相成候ニ付テハ該手續ニ據リ免狀下付願出ツルモノアルトハ職醫欠乏ノ地ニ限り區域ヲ定メ其地勢及牛馬頭數等左ノ書式ニ據リ詳細取調木人願書ト共ニ進達スヘシ

但明治十九年縣令五十七号發給止ス

書式

職醫夜間業出願調書

住所族籍

氏 名

生 年 月

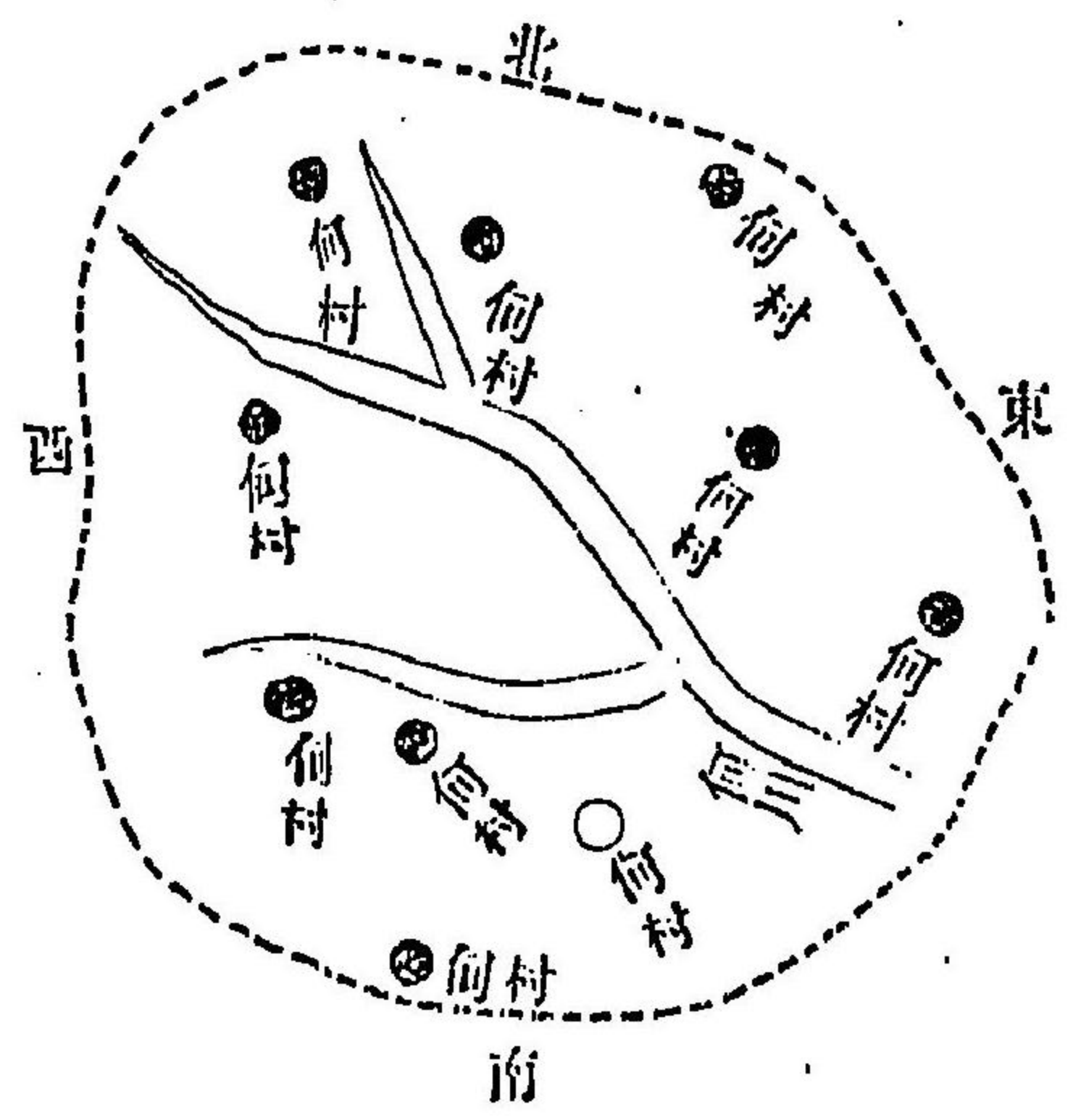
營業區域(能美郡一圓トカ以ハ何町何村トカ)區域内地勢(左ノ如キ)見取圖ヲ添付スヘシ
 同廣狹(東西南北)ノ里數
 同牛馬頭數

營業年限(何ケ年)

開業獸醫居住地ヨリ依開業獸醫營業區域境界迄ノ最近距離(何里何丁トカ)

○開業村

●區域内村落



●訓令第八十八号(明治二十年三月三十日)
 今般金澤遞信管理ヨリ各郵便局ヲシテ直接ニ各局長役務ニ就キ戸々取調サセ度旨照會遊
 候條該局ヨリ出頭候ハ、諸事不指支様其求ニ應スヘシ
 ●訓令第三十七号(明治二十一年二月二日)
 勸業通俗談話會準則別紙ノ通り相定條條有ニ準據ニ適宜部審ヲ定メ規則編製ノ上來ルニ
 十日限リ開申可シ
 (別紙)

勸業通俗談話會準則

- 第一條 水會ノ名稱ハ能美郡何町村外何ケ町村勸業通俗談話會ト稱ス
- 第二條 水會ノ目的ハ汎ク農工商業ノ諸件ヲ平易ニ講談シ以テ其改良上進ヲ圖ルニ在リ
- 第三條 會員ハ農工商業ニ關スル實業家トス
- 第四條 本會ハ時アツテ各業組合ノ役員又ハ本郡私立勸業會其他水會ニ裨益ナル人ヲ聘
 シテ必要ノ講談ヲ要ムルコトアルヘシ
- 第五條 本會ハ務メテ民間業務ノ開闢ヲ見計ヒ一ヶ月一回定期開設スルモノトス

第六條 會場ハ、戸長役場内又ハ寺院等充分ニ會員ヲ容ル、ニ足ル家屋ニ於テ設ケル。

第七條 本會ノ役員ハ左ノ如シ

- 會主 本會一切ノ事ヲ管理ス
- 幹事 會長ヲ補佐シ會務ヲ整理ス
- 世話掛 會主ノ意ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第八條 會主ハ、戸長幹事ハ、勸業委員世話掛ハ、町村總代又ハ、勸業世話掛トス

第九條 本會ハ、經費又ハ、寄附金ヲ以テ支弁ス

第十條 本會ノ區域ハ、戸長役場部内トスト雖モ地方ノ便宜ニヨリ更ニ數區ニ分畫スルハ妨ケナシ

訓令第五十六号(明治廿一年二月十七日)

商工會若シハ、商法會議等商工事ヲ談論講究スル各會ヲ私立シ又ハ、商工子弟ノ爲メ夜學會ノ類ヲ創立スルモノハ、該會規則武部宛其時々届出シ且一ケ年間會議ノ度數議日并ニ重要議事ノ要領ヲ摘録シ翌年一月中届出スヘシ
但從來本文各會等設立アルモノハ、此際届出スヘシ

訓令第七十一号(明治廿一年三月七日)

客年本縣訓令第二百三十二号令達ノ次第モ有之候條附來左ニ記スル各業ヲ營マントスル者アルトキハ、必先該組合ヘ加盟センメ該願書副書之端ヘ加盟証明ノ証トシテ組合事務所ノ印ヲ捺捺爲致且從來營業許可ヲ得未ク加盟セサル向ハ、此際加盟爲致其旨届出スヘシ
但即今同業組合設置無之向ハ、該願書副書ノ端ヘ其旨明記スヘシ

- 一 織績製造并販賣
- 一 漁業採藻

訓令第一百十号(明治廿一年四月十九日)

本縣農事巡回教師渡邊三郎人造肥料製法方説示ノ爲メ曾テ郡内巡回、處農家ニシテ其利益アルヲ知リ實施ス可キ氣向モ有之候條此際一層實施方酌獎ス可シ

訓令第百三十七号(明治廿一年五月三十日)

明治十八年農商務省第二十号達勸業貯蓄ノ儀ハ、本年四月同省訓令第二十号及ヒ本月本縣訓令第六十七号ニ基キ昨二十年一月ヨリ十二月迄ノ景況來ル六月十日限り報シ爾後ハ、毎一年間ノ結果ヲ翌年三月五日限報告スヘシ

訓令第六十七号(明治廿一年七月廿七日)

本年三月石川縣令第三十号ヲ以テ報告何改正相成候ニ付テハ同月訓令第八十三号ヲ以テ
 料調製差出方令達置候處今般詮議ノ次第有之自今左ノ項目ハ勸業委員ニ於テ調製差出ス
 但様式ハ各戸長役場ニ付承合スヘシ

半年報

七月十日

一都邑物價

年報

一水産統計表

二月五日

一繭産額概算表

三月一日

一製茶産額概算表

全上

一蠶糸蠶卵紙與綿産額概算表

全上

一製糖産額概算表

全上

一牛數表

全上

一豚數表

全上

一馬數表

全上

一織物産額ノ一

全上

一全上ノ二

全上

一幹臘雜滓魚油産額概算表

全上

一海産物産額概算表

全上

一食鹽産額概算表

全上

一大豆粟稗産額概算表

全上

一黍蜀黍蕎麥産額概算表

全上

一玉蜀黍甘藷馬鈴薯産額概算表

全上

一質綿大麻苧麻菜種産額概算表

全上

一葉煙草藍葉甘蔗産額概算表

全上

一牛乳漆汁産額概算表

全上

一蠶表類産額

全上

一 紙類産額	二月二日
一 油類産額	全 上
一 陶器及磁器産額概價	全 上
一 製菓産額	全 上
一 農工及諸雇賃錢	全 上
一 麥作概況	其年五月廿日
一 麥作付及別概算表	其年七月五日
一 麥収獲石高概算表	全 全 上
一 養蠶概況	其年七月廿日
一 茶概況	全 全 上
一 夏成物被害耕地概算表	其年九月廿日
一 米作概況	其年十月廿日
一 米穀作付及別概算表	全 十二月十日
一 米穀収獲石高概算表	全 上

一 秋成物被害耕地概算表 全 上

● 訓令第百八十七号(明治廿一年九月廿六日)

本郡陶器傳習所設置候概況ヲ以テ生徒十五名ヲ限リ募集致度旨別冊規則ヲ添ヘ本郡陶器工組合頭取ヨリ廣告方出願候ニ付右生徒志願ノ者ハ來ル十月五日迄ニ該組合事務所へ願書差出スヘシ格諭示スヘシ

能美郡陶器傳習所規則

第一章

總則及目的

第一條 本所ノ位置ハ當分本郡通成館内陶器室ヲ假借シ之ニ充ツ

第二條 本所ハ特ニ郡役所ノ保護監督ヲ仰シモノトス

第三條 本所ハ書法ハ勿論書體及圖樣ヲ教授シ應用陶器ヲ速成セシムルヲ目的トス

第四條 本所へ入學セント欲スルモノハ品行端正ニシテ年齡十五才以上ニシテ入學試験ニ合格スルモノニ限ル

但十四才未満ト雖モ陶器ニ熱心ナルモノハ第五條ノ試験ヲ爲シ合格ノ者特ニ入學ヲ許ス事モアルヘシ

第五條 入學試驗科目如左

作文

假行交り往復文

算術

和洋中算術四則

書

普通隨意

第六條 入學生徒ノ員數ハ所長之ヲ定メ募集ノ際廣告スルモノトス

但入學試驗ニ合格ノ者定數以上ニ登ルルハ所長ノ撰擇スル所ニ依ル

第七條 入學セント欲スルモノハ募集廣告ニ隨ヒ傳達書式ノ願書(正副)水郡九谷陶器(三通)

書工組合事務所へ差出スヘシ

但元陶書生ニシテ退門セシモノハ其師家ト連署ヲ以テ願出ツヘシ

第八條 試驗ニ合格シ入學ノ許諾ヲ得タルモノハ第二号書式ノ在學証書ヲ受出スヘシ

第九條 在學年限ハ三ケ年トシ其學科程度ハ所長教師協議ノ上之ヲ定ム

第十條 本所生徒ハ凡テ通學セシメ授業時間毎日六時以下トシ出所時間ハ日ノ長短ニヨ

リ所長之ヲ定ム

但祭日日曜ハ休業ス

- 第十一條 毎月々次小試験ヲ爲シ春秋二回ニ定期試験ヲ施行ス
但特別進歩シタルモノハ臨時上級セシムル事アルヘシ
 - 第十二條 本所ハ生徒ニ對シ一ケ月金十錢以内ノ授業料ヲ徴収スルコトアルヘシ
- 第二章
- 第十三條 本所ニ左ノ役員ヲ置ク

所長	壹名
幹事	壹名
教師	壹名

第十四條 所長ハ本所諸般ノ事ヲ総理スルモノトス

第十五條 幹事ハ所長ノ命ニ隨ヒ本所ニ關スル庶務ヲ弁理スルモノトス

第十六條 教師ハ授業上ニ付科程ヲ定ムルコト平常ノ教授ニ屬スル事月次及定期ノ試験ヲ爲シ及第并ニ卒業ノ証明等物ヲ職務ニ關スル事件ヲ擔任ス

第十七條 所長ハ本郡九谷陶器書工組合取頭へ幹事ハ全理事へ教師ハ本郡陶器教師へ委屬ス

第十八條 本所ニ係ル經費ハ授業料及有志者ノ寄附金ヲ以テ支弁スルモノトス

第十九條 本所生徒心得并ニ取締ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ設ク

(第廿号書式如左)

陶書傳習所入學願

私義本所規則ヲ遵守シ入學修業仕度志願ニ候條御試験ノ上御許容被下度此段(師家又ハハ後)進署ヲ以相願候也

能美郡何町村何番地何某長次男

明治廿一年 月 日

姓名 印

全郡何町村何番地

師家又ハ父兄若シクハ后見人 姓名 印

能美郡陶書傳習所御中

(第貳号書式)

在學証書

私義

今般入學許容相成候ニ付テハ在學中御規則堅ク相守リ卒業ニ至ル迄根リニ退學轉學等仕間取候仍テ証書如斯候也

能美郡何町村何番地某長次男

年月 日

姓名 印

全郡何町村何番地

保証人 姓名 印

能美郡陶書傳習所御中

訓令第二百二十七号(明治廿一年十二月廿二日)

田區改正ノ義ハ本年一月訓令第三十三号ヲ以テ勸奨ニシ旨令達置候處目下欠ク可ラカル事業ニ有之就テハ來ル廿二年一月十一日午前九時出廳シ着手方法協議スヘシ但參考ノ爲メ本縣下河北郡柳橋村田區改正書類等寫別冊覽部下附ス

河北郡柳橋村田區改正

一壹附壹及附貳二十七步

舊五十四筆

此ノ改正費用四十五圓六十八錢一反歩ニ付四圓〇八錢ナリ

一 壹町二反三畝歩改正

十六筆

此山抄一反一畝八歩ナリ別一反歩ニ付一畝歩強ノ出歩ニ當ル此一反歩ヲ十三錢五厘強ヲ以テ買受クルトキハ前記四十五圓六十八錢ハ既ニ償却ニ至ル

印紙

約定証

明治廿一年一月本縣令第十二号御達ノ趣ニヨリ柳橋村地内地戸一紙申合ノ上耕耘便利ヲ

謀ラシカ爲メ耕地區畫ヲ大ニシ畦畔溝梁作道等ヲ改築修成セントスル約定左ノ如シ

一 第一條 木村田畑等區畫改正ノケ所ハ字ニノ部トス

一 第二條 在來ノ田畑等三ヶ所以上ニ所有スルモノト雖モ區畫改正ノ上ハ可成一二ヶ所ニ於テ引地スルモノトス

一 第三條 在來ノ持地ヨリ地位下等ノケ所ニ於テ不得止引地スル者ハ反別三畝十歩ニ付七歩ノ割合ヲ以テ増歩ノ内ヨリ償フヘシ

一 第四條 在來ノ畦畔溝梁等ハ地形ノ儘反別ヲ丈量シ其持主反別ノ内ニ組込モノトス

一 第五條 新設ノ畦畔ハ横巾竿目四分江敷ハ底巾五分トシ道巾ハ七分トナシ各境界ニ抗チ打置クモノトス

一 第六條 區畫改正竣成ノ上各自引地スルケ所ハ別紙見取圖ニ記載ノ順番ヲ以テ引地スルト雖モ都合ニヨリ他へ變スルコトアルヘシ尤モ區畫ノ便利ニヨリ反別増減ヲ生スルルハ第七條ノケ所ニ於テ差引平均スルモノトス

一 第七條 區畫改正竣成ノ上増歩ハ當分飯ニ地主一新ノ共有地トスルモノトス但便宜ニヨリ配分或ハ交換又ハ賣買スルコトアルヘシ

一 第八條 地位等級并ニ地價ヲ附スルハ后チ五ヶ年ヲ經テ地主協議ノ上定ムルモノトス

一 第九條 諸税金ハ日下各自所有スル所ノ券面金額ニヨリ是迄ノ通りタルヘシ但地位等級ヲ定メ新地券張紙下附ノ上ハ此限リニ非ラズ

一 第十條 水村地内他人田畑ノ境界ヨリ三間以内ニ在ル樹木(宅地ヲ除ク)高サ三間以内ニシテ中伐スルモノトス

但枝木ヲ切斷スルハ每四ヶ年トス

一 第十一條 第十條ノ場合ニ至リ彼是故障ヲ申立代探セサルモノアルトキハ村人夫ヲ以

テ代理人約定ノ通り之レヲ履行スルモノトス

一第十二條 本約定証書ハ本村組長函ニ保管シ置クモノトス

一第十三條 此約定証ノ全文ヲ所轄戸長役場ヘ届出スルモノトス

一第十四條 此約定ノ外ニ起リタル事件ハ臨時地主一紙協議ノ上執行スルモ尤モ地主ノ

過半數ニ掛ルモノトス

右ノ條々堅ク遵守可致候依テ地主一紙連印ヲ以テ約定証書如件

河北郡柳橋村

明治廿一年三月廿六日

金 谷 金 信 印

(外十八名交名ヲ畧ス)

●告示第二十号(明治廿二年二月十五日)

郡内農事ノ改良ヲ希圖シ今江村川七三郎外十八名ヨリ別冊巡回教示定款ヲ添ヘ願出候ニ付允許ヲ與ヘ候條試作志望ノ者ハ所轄戸長役場ヘ申出スヘシ

(別紙)

本郡農事改良上ニ付近年來御勸奨相成居候義ハ普ク郡内當業者ノ知ル處ニシテ之レカ改

頁ハ目下ノ急務ニ有之然ルニ未ク其著シキ改良ヲ見ス之レ生等ノ常ニ遺憾トスル處ナリ

依テ同志ノ者申合セ米作改良ヲ主トシテ郡内ヲ大農區ニ分更シ受持サ定メテ本年ヨリ巡

回教示ノ法方ヲ設ケ實施致度最モ給料等ヲ要セス篤志ヲ以テ其任ニ當リ幾分ノ義務ヲ盡

シ度存候間御認許相成度別紙定款書取添ヘ此段連印ヲ以テ相願候也

石川縣能美郡今江村

二月二十日

川 七三郎 等

明治廿二年二月十四日允許

農事改良巡回教示定款

第一條 能美全郡ヲ六農區ニ分テ每農區巡回教示ノ法ヲ以テ漸次農事ノ改良ヲ謀ルヲ目

的トス

第二條 教師ハ郡内在籍者ニシテ本縣農學校并ニ石川郡模範農場ノ卒業生及築前地方ニ

テ農事講究セシモノヲ以テ之レニ充ツルモノトス

第三條 農區ハ當分別表ノ通り之レヲ定ムルモノトス

但土地ノ便否ヨリ甲乙農區組換スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其事由ヲ郡長ヘ

具申承認ヲ受クルモノトス

第四條 教師ハ郡長ノ依屬ヲ受ケ每受持農區ヲ擔當スルモノトス

第五條 教師ハ郡長ノ監督ヲ受ケ重大ニ事件ハ戶長及ヒ勸業委員ト商議ノ上實施スルモ

ノトス

第六條 教師ハ總テ篤志ヲ以テ其任ニ當リ給料及ヒ旅費日當ハ一切受ケサルモノトス

但受持各町村試作主等ニ於テ滞在申ノ賄ヲ給スル場合ハ此限リニアラス

第七條 每農區中農事熱心者ヲ撰ミ五ヶ所宛試作所ヲ設置スルモノトス

第八條 試作場ニ係ル經費ハ總テ試作主ノ負擔トス故ニ其試作場ノ収益ハ試作主ノ所得

トス

但共同篤志ヲ以テ本文經費ヲ弁スルハ妨ケナシ

第九條 每農區試作志望者五名宛關係戶長役場ニ於テ取極メ其人名郡役所ニ届出スルモ

ノトス

第十條 試作場ニハ何々改良試作場ト書シタル簡便ナル標識ヲ建設スルモトス

第十一條 試作場地質ニヨリテ栽培法等異ナルハ勿論ナレモ可成一定ノ方法ヲ以テ教耶

スルモノトス

第十二條 每農區ニハ隔月一回宛談話會ヲ開キ農事改良上ノ要點ヲ講究談話スルモノト

ス

第十三條 前條談話會ヲ開設スルルハ開會五日前其開會スル地ノ戶長役場ニ届出シ戶長

役場ニ於テハ關係町村一般ニ通知スルモノトス

但本文談話會係ル經費ハ其農區内ノ負擔トス

第十四條 教師ハ毎月一回宛通成館ニ集合シ教育上ノ打合セ及ビ持テ農區内ノ試作況景

ヲ報シ併セテ改良上ノ談話ヲナスモノトス

第十五條 教師集會ハ農事改良上ニ付郡長ヨリ諮問アルルハ審議ノ上答申スルモノトス

第十六條 教師ハ毎月々末ニ一回宛受持農區内試作場ノ況景ヲ郡衙勸業係ニ報告スルモ

ノトス

第十七條 此ノ定款中實施上指支等アリテ更正加除ヲ要スルルハ教師總會ノ決議ヲ以テ

郡長ノ承認ヲ受クルモノトス

●訓令第七十号(明治廿二年四月十八日)

信書秘密ノ義ニ付逓信大臣ヨリ今般部下各局所へ別紙ノ通り訓諭相成候ニ付テハ逓信省總務局長ヨリ信書秘密ノ意義解釋書添へ送致候所キテ以テ本照知事ヨリ訓令相成リ候條此旨相心得フヘシ

○号外訓諭(明治廿二年三月廿六日)

公衆各自ノ信書秘密權ハ交際商業其他百般ノ通信ニ於テ渾テ必要ナルハ言ナク特ニ政事上ノ通信ニ在テ最モ貴重スヘキ權理ニシテ決シテ他ヨリ之ヲ侵スヘカラス而テ郵便電信ノ實業ニ從事スル者ハ常ニ爲メ之ヲ保護シ荷漏洩ナキナ期シ公衆ナシテ安固ノ念ナ厚カラシムルヲ要スルハ誠ニ當然ノ職務ト謂フヘシ就テハ本年一月内閣訓令ヲ以テ官吏ノ公衆ニ對シ政事上ノ意見ヲ演說又ハ叙述スルノ禁ヲ解カシメテ雖若シ郵便電信ノ實業ニ從事スル者ニシテ一政黨ノ爲メハ演說叙述ヲナスモハ縱令職務上守ル所アリテ荷漏洩スルコトナキモ自然他ノ政黨ニ於テ疑念ヲ其間ニ懷キ各自權理ノ安固ナラサルヲ懼ルハ情勢ノ免レ難キ所ニシテ其弊延テ郵便電信事業ノ信用ヲ傷フニ至ルヘシ仍テ今後該業務ニ從事スル者ハ其職務上ニ對シ不黨不偏ヲ旨トシ政黨ノ爲メニ演說又ハ叙述セサルコトヲ勉ムヘシ此旨持ニ訓諭ス

信書秘密ノ意義

信書秘密ハ唯封緘セル書狀ニ止ラズ郵便報葉書其他各種郵便物及電報等凡郵便ニ付シ又ハ電報ニ由リ送達スルモノハ渾テ皆之ヲ包含ス

是故ニ官吏ハ勿論雇員集配人遞送人等荷モ郵便電信ノ業務ニ從事スルモノニ在テハ獨通信ノ意旨ノミナラス其職務上見聞シタル事項即差出人受取人ノ住所氏名及其送達ノ物數通信ノ字數語數等ニ至ルマテ一切之ヲ他人ニ漏洩セサルヲ以テ信書秘密權ヲ侵犯セサルモノトス

○訓令第九十五号(明治廿二年六月三日)

自家用之製茶ヲ爲スモノト雖モ明治二十年十二月農商務省令第四号茶業組合規則第三十三條第三項ノ租悪不正茶ハ製造不相成候所キ訓令相成リ候條其旨該當者ヘ示達スヘシ

○訓令第八十九号(明治廿二年五月十七日)
報告材料製方昨廿一年七月訓令第六十七号ヲ以テ相違置候處本年度一郡聯合町村會ノ評決ニ據リ勸業委員ヲ廢シ候就テハ爾后該委員ニ於テ調製來ル分ハ悉皆其役場ニ於テ調製指山スヘシ